

水の学校

5年間のあゆみ

武蔵野市水環境講座
報告書



2019(平成31)年3月
武蔵野市環境部下水道課

はじめに

「水の学校」は武蔵野市の市民参加型の水環境啓発講座として2014年度にスタートしました。この「5年間のあゆみ」は、市の担当職員と企画運営のアドバイスを行うNPO、そして参加者・支援者であり活動の主体でもある市民がどのように講座を組み立ててきたのか、開始から5年間の節目に振り返ってまとめたものです。各年度の活動内容に加え、事業にかかわったメンバーの率直なコメントや重要と思われるポイントを数多く紹介しています。また、「水の学校」全体を通して特徴的と思われる取り組みについては、「コラム」の形で取り上げています。今後、水循環・水環境に関わる業務や活動に携わる方、また水に限らずさまざまなテーマで市民参加型のプログラムを企画・実施する方にご活用いただければ幸いです。

目次

はじめに	2
「水の学校5年間のあゆみ」編集にあたって 武蔵野市長 松下玲子	3
「水の学校」5年間を振り返って 「水の学校」名誉校長 橋本淳司	3
「水の学校」の経緯と特色	4
「水の学校」のあゆみ	6
「水の学校」事務局のある1年	8
2014年度の活動	10
コラム1 「水の学校」の送り手たち	13
2015年度の活動	14
コラム2 講座ができるまで	19
2016年度の活動	20
コラム3 ニュースレターとは?	25
2017年度の活動	26
コラム4 サポーターミーティングとは?	31
2018年度の活動	32
コラム5 ステップアップ講座とは?	37
つなぐこと、続けること～「水の学校」の立ち上げから5カ年を経て NPO法人雨水市民の会 笹川みちる	38
おわりに	40
報告書の発行にあたって	42



「水の学校 5 年間のあゆみ」編集にあたって

武蔵野市長 松下玲子

武蔵野市を含めた市街地では、都市化が進展したためにおこる雨水の流出を抑制するため、各地で雨水浸透施設等を設置する取り組みが行われていますが、いまだに多くの雨水が下水道管に流れ込んでいて、地面に浸み込むなど、本来流域が有していた水循環系のバランスが崩れつつあります。更に短時間に集中するゲリラ豪雨の頻度も高まっている中で、都市型水害から市民生活の安全を確保するためにも、水循環系の改善が望まれています。

「水の学校」は、平成26年度に開校して平成30年度で5年の節目となりました。わたしたち人間の身体は、体重の6割から8割が水だと言われています。そのほか生活のたくさんの場面で水は関わってきていますが、その水をもどくように使うか、どこから来てどこに行く水なのか、普段

の生活の中で意識する機会はありませんという人も多いと思います。この5年間で修了生は161名となり、「水の学校」の講座やイベントの企画・運営に参加していただいているサポーター登録者は現在までに76名となりました。市と連携した活動のほか、自主的な活動を行ったり、サポーターにならなくても地域で活動している方々も含め、様々な形で水への関心、意識をもった方が市内に広がっています。

昨年も、豪雨等の自然災害が日本各地で頻発し、甚大な被害をもたらしています。天の恵みである雨水をどのように有効利用し、また、自然にどのように戻していったらいいか、改めて一人ひとりが考えて行動しなければなりません。これからも市と市民が連携し、水循環・水環境の課題を共有し、解決に向けた取り組みを進めていきましょう。

「水の学校」5年間を振り返って

「水の学校」名誉校長 橋本淳司（水ジャーナリスト・アクアスフィア水教育研究所プロデューサー）



武蔵野市の「水の学校」に5年間携わらせていただいたことは、私にとって貴重で楽しい経験でした。「水の学校」を通じて出会い、いっしょに水のことを学んだ参加者のみなさん、市長さん、市役所の皆様、関係者の皆様に感謝を申し上げます。

「水の学校」の特長は3つあります。1つ目は、水の現場に実際に足を運び、五感で感じること。2つ目は、少人数で語らいながら学びを深めること。水といってもいろいろです。蛇口から出る水道水、ペットボトル水、雨水など。普段は目に見えない地下水の流れ、上下水道の流れ。さらには食べものや衣類など製品に変身している水。それらをどのように使い、どのように感じているかは人それぞれです。あって当たり前と思うのか、ありがたいと感じるか、あるいは脅威を感じるのかも、時と場合によって違いま

す。振り返って見ると、この5年間は豪雨災害や渇水、地下水の減少など、さまざまな水の出来事もありました。そうしたなかで参加者が身近な水辺や水施設に出かけ、語り合うことで、水に対する多様な価値観に気づき、共有するというのはとてもすばらしいことでした。

そして「水の学校」の3つ目の特長は、修了生がサポーターとなって、次年度の学びを手伝ったり、自主企画を立ち上げていることです。気づいた人が伝える人になり、次の気づきを生んでいくサイクルが育まれつつあります。自治体の教育事業の成果は評価が難しいのですが、「水の学校」は修了生の今後の活動こそが、本当の意味での成果になっていくのだろうと期待しています。

水の学校 の経緯と特色

武蔵野市水環境連続講座「水の学校」とは

「水の学校」は、市民のみなさんと一緒に水を知り考えるシリーズ講座です。くらしの中の身近な水循環、上下水道の役割や、水に親しみ水を楽しむ知恵、そして世界規模の水課題、地球規模の水循環・水環境まで、水を取りまくさまざまなテーマを取りあげ楽しみながら学ぶこと、そして受講生同士が仲間となり、地域での自発的な行動が広がることを目指しています。

「講座が楽しい」を一番大切にする

楽しければ「もっと知りたい」「他の人に伝えたい」気持ちが湧いてきます。

一面からではなく、多面的な切り口から学ぶ

使う水がどこから来て、どこへ行くのか。くらしと水にはどんな関わりがあるのか。一連の水循環を学ぶことで、水環境の保全の重要性、そのために下水道の果たす役割に自然に気づくことを目指します。

現場の見学・体験と参加型ワークショップのセット

受講生同士がコミュニケーションをとり、発言して意見を共有します。見て聞くだけで終わらない講座です。

講座修了後の活躍の場

修了生による「水の学校サポーター」制度を設けました。サポーターは「水の学校」の企画運営に参加し、自由に情報交換や交流を行うことで自身のスキルアップを図りながら、さらに広く市民へ気づきを伝えていくことができます。

「水の学校」が生まれた背景

武蔵野市にはさまざまな水環境の課題があります。主な課題としては、集中豪雨時に発生する浸水被害対策や、耐用年数を迎えた下水道管等設備に係る更新費用をはじめ、身近な水辺の創出、湧水の復活などが挙げられます。

これらの多様化した課題を解決するためには、公共用地での対策のほか、各家庭での雨水浸透ます・雨水貯留タンクの設置や下水道使用料の適正化など、市民の理解と協力が欠かせません。

課題を市民と共有し、行動につなげるため、従来の啓発事業を革新したのが「水の学校」です。

企画実施におけるNPO法人雨水市民の会との連携と活動の担い手づくり

「水の学校」は、市のみの力によって立ち上がったわけではありません。従来の市による啓発手法は、市から市民への一方通行で市民は受け身にならざるを得ませんでした。そのような問題を抱えている中、下水道広報関係者や雨水事業関係者などとの出会いがあり、市で行う啓発活動のヒントを得ました。そこで紹介されたのがNPO法人雨水市民の会です。水循環に関する一般向けの啓発経験の豊富な団体に「水の学校」の企画運営を委託することで、効果的な啓発を行いつつ、5年間かけて市職員や講座を受講した市民にもノウハウを蓄積し、市民が自発的に活動を担うことができるようになる計画としました。

サポーターの中には、企業や地域社会の一線で活躍している方も多く、市職員とは違った視点で活動に取り組む方もいます。市民とともに担うことで、武蔵野市の水循環や水環境保全の啓発に厚みが生まれています。



より幅広い層をターゲットとした広報

受講生の募集についても工夫しています。水循環に限らず、環境に配慮した取り組みはみなさんの行動の積み重ねが大きな力となります。ところが、これまでの下水道関連のイベント参加者は、もともと環境問題に関心の高い層に偏る傾向がありました。市民がより幅広く参加するためにどんな工夫が必要かを議論し、様々な取り組みをしています。

表現のわかりやすさを重視

環境問題や下水道に対して興味がないという方にも身近な内容だと感じてもらうため、専門用語をできるだけ使わない表現を心がけました。

親しみやすいデザイン

パンフレットやポスターは思わず手に取ってみたいくなるようなデザインを目指しています。雨粒をモチーフとしたキャラクターやイラストなど、プロのイラストレーターやデザイナーが作成しています。

地域での幅広い活躍を期待

連続講座の対象は15歳以上の市民（在学、在勤を含む）としています。また、開催は全て土曜日とすることで平日は仕事・通学をしている方も参加しやすくなっています。武蔵野市内には、大きな川がない、すり鉢状のくぼ地がある、下水の処理場を持たない、水道は独自に事業を行っているなど、近隣他市と異なる特徴もあります。受講生が「どこかの」ではなく「私の」水として取り組めるよう、大きな水循環をとらえつつも武蔵野市の事情を踏まえた講座とし、修了後の地域での活躍を期待しています。

無作為抽出方式

多くの方に確実に情報を届けるため、市報やホームページでの広報のほか、参加条件を満たす市民1,000人を無作為に抽出し、直接講座の案内を発送しました（2018年度は2,000人へ発送）。これをきっかけに講座へ参加し、さらに修了後に活動している方も多く、効果の上がった方法の一つです。

連続講座以外の幅広い啓発

連続講座に参加できない方にも「水の学校」の取り組みを知っていただく事業も行っています。サポーターと市が一緒になり、親子でも楽しめるイベントをはじめ、一般向けのイベントや講座・見学会を実施したり、「水の学校」の内容や水にまつわる豆知識をお知らせするニュースレターを発行したり、「水の学校」フェイスブックや市公式ウェブサイトの運営を行うことなどにより、多くの方の目に留まる「気になる」啓発を目指しています。



他部署や外部機関との連携～下水道課が事務局となっている理由～

市民生活に下水道施設は欠かせないものですが、大部分の施設は地下にあり直接見る機会ほとんどなく、「下水道の見える化」は全国的なテーマとなっています。一方、下水道の現状だけを学んでも、その大切さに気づくには不十分であると言えます。地球全体の水循環における下水道の位置づけを伝えることで、初めて「なくてはならないもの」として自ら気づく機会になります。

しかし、下水道課だけでは以上の内容を十分に網羅する講座をつくることはできません。「水の学校」が始まる以前は、市の各部署が各々の視点で個別に環境啓発事業を行っていましたが、水のテーマは様々な分野に共通しており、連携した講座ができるはずだという考えに基づき、事業の骨格を組み立てました。

水の循環の大きな流れを学ぶ、一連の講座の構想を具体化するにあたっては、お互いに「水の学校」の趣旨を共有し、それぞれの機関・部署にとっても利点のある事業となるよう、広い視野をもって話し合いを重ね事業をつくりあげてきました。

2013年度

8月、概算予算要求。下水道や雨水利活用、水循環について総合的に学ぶ参加体験型の講座として計画しました。当初案から講座数や対象者数、連続講座かどうか、修了生が参加できる制度など全体の構成を何度も練り直し、ようやく実施のための予算を確保することができました。その際の目標として、5年の間に講座を受講した市民が徐々に自発的な活動を行い、啓発で担う役割を増やすことを目指しました。

2014年度

7月12日、「水の学校」が開校しました。全6～7回の連続講座のスタイルはその後5年間のベースとなりました。広く講座の存在を知ってもらうため、関係団体や地域の大学等へポスターやチラシの設置依頼をしたりFacebookページを立ち上げるなど、初年度ならではの営業の大変さがありました。一方で、当時のスタッフ用進行表はシンプルで、イベントに慣れたプロが進行するのに必要十分なものでした。修了生へのアンケート結果を次年度の運営に活かすしくみも初年度から取り入れています。

「水の学校」開校！

水の学校ニュースレター発行開始

「Oh!水 むさしのの水のものがたり」発行

「水の学校」サポーター誕生！

第8回国土交通大臣賞
「循環のみち下水道賞」受賞

2015年度

連続講座のほか、すそ野を広げるイベントを多く実施しました。昨年度の連続講座修了生の有志は「水の学校サポーター」となり、運営に関わるようになりました。サポーター間での情報共有のためのメーリングリストを開設し、ミーティングを開催しアイデアを出し交流を深めました。また、市の担当者対話しながら知識を深めることのできるステップアップ講座を開催し、その後の有志活動の卵ができた年でした。

「水の学校紹介パネル」作成

2016年度

NPO法人雨水市民の会から市職員、サポーターへ実施スタッフの移行を始めた年でした。4月に市の担当職員は総異動し「なぜ下水道課が水の学校をやるのか？」を問い直し、今後の人事異動に対応した事業継続のために制度面を整理する中で、職員研修や要綱制定も行いました。また、「ねらい」を共有し職員ごとの細かな進行表を作成するようになりました。サポーターと信頼関係をつなぐ難しさも感じた年でした。

「武蔵野市水のほそみち紀行」発行

サポーター自主活動が活発になる

水の学校

のあゆみ

「水の学校」は、水循環全体を広くとらえ、市民と楽しく学び共に考えていこうという挑戦から始まりました。外部委託先から市職員中心の企画運営へと移行し、講座を修了したサポーターの関わりも深まってきています。開始から5か年の間の主な出来事です。



2017年度

4月に事務局が武蔵野市環境部下水道課管理係から水循環推進係へ移りました。送り手の育成を意識し、サポーター向けにプロジェクトWETエデュケーター講習会を実施しました(P28参照)。サポーターについてはニュースレターの原稿作成や自主活動の活発化など活躍する場面が増える中、職員から見ると「負担が重すぎないか」「能力が存分に活かされるか」の間で気を揉むこともありました。

下水道展'17 東京出展!

「武蔵野市にくる水・ゆく水」発行



「水循環シンポジウム2018 優秀賞」受賞

2018年度

5年目を迎え、連続講座を実施する一方で今後を見据えた事業展開の模索を行いました。サポーター企画のステップアップ講座では、バスを利用した施設見学、暑い時期の座学&デモンストレーション、外部講師を招聘してのまちあるき&ワークショップと、多様な形態で実施しました。また、講座内でサポーターが前に出て説明する場面も多くなりました。かつて受講生だった方が知識を深め、発信する流れができています。

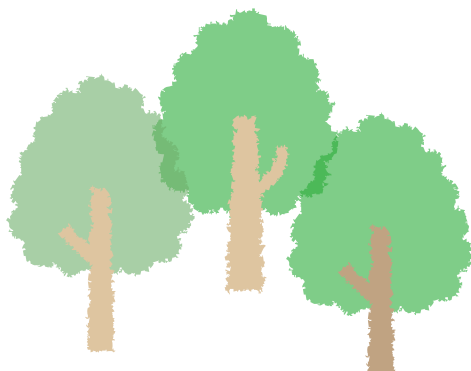
サポーターが
講師役となる
講座が増える



「水の学校5年間のあゆみ」発行

2019年度～

これまでの5年間で、参加者が学ぶことに加えてその後の担い手となる仕組みづくりを行い、市民や職員の能力育成やコミュニティ形成を行ってきました。現状では、参加しやすい世代に限りがあるなど一部課題もあるため、より参加しやすい仕組みを構築し、引き続き市民の力を生かした事業を行えるよう工夫をしながら事業を継続します。



4月

今年度のパンフレットを作成し、納品後の市内施設・団体への送付計画を立てる。他部署と連携して、無作為抽出で参加者を募る際の抽出条件の選定（情報管理課）、郵送ハガキの手続き（総務課）、CATVやラジオでの周知の段取り（秘書広報課）を行う。市報掲載記事の作成、サポーターへの情報提供などに取り掛かる。

担当の声

4月は各課と調整して準備することが多い。市報原稿の締め切りに注意！

5月

来月の開校式に向けて、具体的な進行や役割分担を決める。各関係者との事前打合せ。また、連続講座の申込が定員に満たない場合や超過した場合の対応。特に無作為抽出のハガキが届いた方から多く問い合わせがくるので想定質問を考えておく。参加者が確定したら当落通知を送付する。それと合わせて、初回講座の案内を開校式の10日程前までには発送できるようにする。

担当の声

準備をする上で、過去の資料が役に立った！

また新たな年度へ

ゴール

3月

今年度の講座の全体を振り返り、改善点を取り入れて、来年度の講座の大まかな概要をまとめる。これらを用いて市長へ来年度の全体の流れを報告し、了承を得る。講座の会場予約や緊急連絡先としての携帯電話の確保など、先行した動きが肝心なものは忘れずに手配を行う。

担当の声

担当職員の異動を想定し、講座全体のまとめ（振り返り）を行うことは大切！

2月

啓発品を作成。サポーターと共に、パネルづくりや、水に関わるスポットの散策マップ作りなど、「水の学校」の活動やこれまでの受講生の声を踏まえて水環境や水循環をより多くの人に知ってもらうためのものを作成する。

1月

新サポーターを迎えての顔合わせのため、ミーティングを行う。来年度の連続講座やステップアップ講座などをサポーターと一緒に考える時期。最終講座で受講生から出たアイデアなどをもとに、今後の講座づくりについて話し合う。

担当の声

新サポーター誕生！市の意見を押しつけず、やりたいことを引き出す工夫をする。

水の学校

事務局のある1年



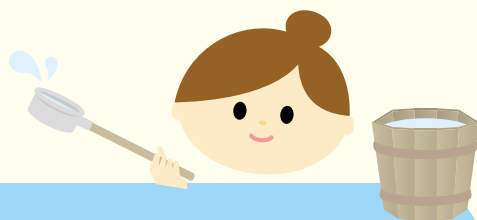
開校式

6月

第1回講座開催。席は自由席にするべきか、世代・性別・居住地区を考慮し指定席にするべきか、カリキュラムに応じて検討する。初回で「水の学校」の印象が決まるので、ためになる講座はもちろん、受講生に次回もぜひ参加したいと思わせる工夫が必要。子ども向けすぎず難しすぎない講座内容になるよう気をつける。

担当の声

講座後の懇親会を設けることで受講生同士のつながりができ、今後の講座において活発な意見が出やすいという印象を持っている。



事務局では1年を通して様々な業務を行っています。「水」に限らず、外部との連携や部署間の協力体制で取り組む事業、参加体験を重視する事業ならではのノウハウが蓄積されてきました。担当職員の目線で1年のサイクルを紹介します。

7月

第2回講座開催。合わせてステップアップ講座を考える時期。サポーターや受講生とのつながりを深める講座を企画・調整する。サポーターの意見を吸い上げる。

担当の声

屋外の講座では、もしもに備えて救急セットを携帯する。また、各講座の詳細タイムスケジュールは、1つ前の回でお知らせできるように固めておく。

8月

連続講座はお休み。単発講座を行う場合も真夏の屋外講座は控え、屋内での座学にする。10月の講座の準備に入るが、見学場所の下見の際は熱中症に注意する。次年度の予算が大きく変わる場合は、概算要求を行う。

担当の声

百聞は一見にしかず。トイレの場所の確認、時間配分の検討などにおいて下見は大切！

9月

バスで市外へ行き、水のゆくえを知る第3回講座。見学先の担当者と質問が出た場合の対応などを事前に打ち合わせしておく。バスの中でのプログラムも考えておく。

10月

第4回は、まちあるきなどの屋外講座が通例。その後のワークショップを通して、新たな気づきや知識を得てもらうため、インプットとアウトプットを意識したカリキュラムを作成する。

担当の声

4回目になり、受講生同士の会話も活発に。同じ人ばかりが固まらないようにグルーピングに配慮する。雨が多い季節なので、雨天時のプログラムも事前に見学先と相談して考えておく。

修了式

12月

最終回となる第6回講座。今までの講座で得た知識を、多くの方に伝えるためにはどうしたら良いかアイデアを出し合い、発表してもらう。

担当の声

サポーター登録を促すため、先輩サポーターの生の声を伝えてもらう。交流会も行う。

11月

第5回は市内の地形を知ったり、市の施設見学を行う。下水道課職員が下水道の重要性について直接市民へ伝える機会であり、様々な質問を通して、違った視点から下水を捉えられる。合わせて修了式の準備も行う。修了バッジのデザインを決め、制作に入る。

担当の声

職員も個々に目標設定を行い、スキルアップにつなげる。





7～1月に連続講座(7回)を実施。現場見学に加え、水についての気づきとその発信を考える体験型ワークショップを行いました。事務局も不慣れなことが多く、もりだくさんでへとへとになったり、話し合いが行き詰まったり、受講生もいっしょに試行錯誤した初年度でした。

連続講座

1

7月12日(土) 開校式「水の学校とは？」～水から見えるわたしたちの暮らし

ねらい

初回講座ということで、受講生同士が会話したり、体を動かしながら水とくらしの接点を感じられるプログラムを意図しました。一般に向けて水のことを伝えてきた水ジャーナリストの橋本淳司さんをファシリテーターに講義と参加型の活動を行いました。

10～80代までの受講生にスタッフも混ざり、「水辺の思い出」を披露したり、今住んでいる流域ごとにグループを作ったりして、共通点などで盛り上がりました。市下水道課から武蔵野市の下水道の概要についても話しました。後半は、各自が水の粒になって、川、海、植物、土など水のある場所をサイコロに従って巡る体験プログラム「驚異の旅」で体を動かししました。橋本さんから水の旅に人間のくらしがどう関わっているか問題提起がありました。

事務局コメント

計画では2種類の活動を用意していましたが、自己紹介と1つ目の「驚異の旅」に思った以上に時間がかかり、2つ目の「水差しを回そう」は橋本さんと事務局の話し合いで急きょ取りやめました。皆が初めて出会う場では、雑談の時間をとったり、盛り上がり始めたら時間で区切らず様子を見ながら進めることも必要で、そのためにも余裕をもったタイムテーブルを組んでおくてはいけなとわかりました。



2

8月2日(土) 武蔵野の水はどこから？～奥多摩町水源の森訪問

ねらい

水道水の源について考えることを目的に、武蔵野市の地下水の水源となっている奥多摩町を訪ねました。奥多摩町の協力のもと森林を五感で感じ、水を通した武蔵野市とのつながりを伝える企画としました。

武蔵野市の水源林がある東京都奥多摩町を訪れました。バス車中では武蔵野市の水、奥多摩の水などのきき水に挑戦、スタッフよりも受講生の正解率をはるかに高くびっくりしました。奥多摩では、樹齢1000年と言われる「倉沢のヒノキ」まで山を登り、森林セラピーガイドの案内で、「登計トレイル」を散策。昼食には地元食材を使ったお弁当を味わいました。

事務局コメント

現地に着いてから「大型バスではこの先は行けない」と言われるトラブルがありましたが、町役場が出してくれた車に分乗し、なんとか予定通り実施できました。「倉沢のヒノキ」への登り降りには、「ヒノキは大きかったが疲れも大きい！」などの感想がありました。



3 9月6日(土) 見る・知る・ふれる下水道 ～三鷹市東部水再生センター・小平市ふれあい下水道館

三鷹市東部水再生センターを訪れ、汚水が処理され川に戻るまでの工程について説明を受けた後実際に現場を見学しました。小平市ふれあい下水道館では、実際に使われている下水道本管内部に入る体験をしました。館内では、汚水を分解する微生物を観察したり、下水道の歴史についても見学しました。

事務局コメント 汚水処理に微生物が活躍していることに驚いた受講生が多かったようです。「微生物のために普段の排水に気をつけよう」「下水に愛着がわいた」などの感想がありました。

4 10月4日(土) 武蔵野市の水循環を考え、「環境フェスタ」で伝えよう

これまでの振り返り、ブース出展に向けたアイデアを出し合いました。見学時にはゆっくり話せなかったこと、水の行方と源の両方を見て改めて感じたこと等から特に市民に伝えたいことを挙げ、伝え方についても考えました。

事務局コメント 受講生の「説明するにはまず自分が理解していない」と等の声から、気づきを伝え、広げる手応えを感じていることがうかがえました。



SPECIAL

10月19日(日) 環境フェスタブース出展 ～「水の学校」ってなあに？

受講生のアイデアを受け、「きき水体験」「むさしのの水3択クイズ」「下水道に流せる？流せない？クイズ」のコーナーを作りました。受講生も解説役として参加しました。

5 11月15日(土) むさしのの今昔を巡る ～水のまちあるき

武蔵野台地の地形に詳しい平田英二さんを講師に迎え、武蔵境地域を歩きました。玉川上水と仙川、水路跡、駅南側の凹地などをめぐり、水との関わりでまちを再発見し、成り立ちを考える機会としました。

事務局コメント 平田さんの下調べに基づき、下見を経てコースを選定。「通っていた場所と水とのつながりを初めて知った」、「仙川の流路や水量の増減について少し謎が解けた」など、講座と日常を結びつけたコメントがありました。

6 12月13日(土) ふりかえりから今後のアクションへ・水からはじめよう！

施設見学や講義は行わず、これまでの講座で得たものや周囲へ伝えたいことを、受講生同士の話し合いを通して、「水の学校の未来のプログラム」として形にしていこうことを目指しました。

事務局コメント 受講生から「水と生活との関わりに興味が高まったが今後のテーマは難しい」「今までになく深いお話ができた」「楽しく知ることが大切」など様々な意見が出され、刺激し合いながら議論が盛り上がりしました。

7 1月24日(土) 修了式 「水の学校」が考える水の未来

初回同様、橋本淳司さんを講師に迎え、前回決めたテーマに基づいてグループごとに下調べをして来た結果を講座チラシという形にまとめて発表しました。後半は邑上市長から受講生一人ひとりに修了証が授与され、その後会場を移して交流会を行いました。

事務局コメント 写真の切り抜き、文房具など短時間で仕上げるための素材を準備し、「チラシ作り」を通して企画の骨格を固めました。実際に、水車や三河島污水処分場跡の見学、水質講座などのアイデアが次年度以降の企画につながりました。

受講生 **27名**
サポーター **13名**

開校記念講演「世界の水、武蔵野の水」

講師：橋本淳司「水の学校」名誉校長（水ジャーナリスト・アクアスフィア水教育研究所プロデューサー）

7/12(土)の午前中に、初回講座に先立ち開校記念講演を開催し、約80名が集まりました。橋本淳司さんは国内外の水事情を取材し、多くの著作を発表しています。日本は食糧や衣料品などの形で多くの水を海外から輸入しているなど、世界の水危機とくらしの関係についての話があり、参加者にとって水についての新たな視点の獲得につながったようでした。邑上市長も出席し、市民のみなさんと共に水環境を改めて考える「水の学校」の意義について話しました。



事務局コメント

午前中に一般向けの記念講演、午後は連続講座の受講生のみを対象にした開校式・初回講座という構成でした。週末の開催でしたが、市の他部署からの参加も多くありました。橋本さんには「水の学校名誉校長」として、その後の年も継続して初回と最終回の講師をお願いしています。節目ごとに、俯瞰的に講座についての意見を聞くこと、毎回水についての新しい情報を得られることが受講生にもスタッフにもよい刺激になっています。

受講生の疑問 & 気づきを集めた 「Oh! 水～むさしのの水のものがたり」

受講生の声をもとに、「武蔵野市の水について一通り伝える」というねらいで作成しました。下水道だけではなく、「水源」「上水道」「雨水のゆくえ」についても説明し、さまざまな入り口から水を知ることができます。また受講生の関心が高かった「水質」や「仙川の復活」、驚きの声が多かった汚水処理には微生物が活躍しているという情報などを盛り込みました。

事務局コメント

受講生有志から出た「ぜひ伝えたいポイント」「特に驚いたこと」を整理しながら編集しました。外面と内面でメリハリをつけ、外側は手にとってもらいやすいようにビジュアルとキーワードを入れ込み、細かい情報は内側の見開きに集約しました。初年度以降もイベントごとに配ったり、サポーターが周囲に「水の学校」を紹介するときなどに活用され、裾野を広げるツールとして活躍しています。



関連イベント

- 7月27日(日) とんぼ池のかいぼり体験
- 10月19日(日) 環境フェスタ
- 11月12日(水) ハザードマップを知っていますか?～今日から始める、水害への備え
- 1月17日(土) クリーンセンター環境講座～廃油キャンドルをつくろう
- 2月7日(土) 武蔵野の水はどこへ～下水道の最先端を知る大人の社会科見学
- 都合により延期 多摩川河口域クルージング

事務局カレンダー

4月

- ・事業の打ち合わせ

5月

- ・パンフレット入稿
- ・市報入稿

6月

- ・連続講座募集期間
- ・第1回講座・特別講演の打ち合わせ

7月

- ・第2回講座下見
- ・第1回講座・特別講演

8月

- ・第2回講座
- ・第5回講座打ち合わせ
- ・第3回講座下見

9月

- ・第3回講座
- ・第5回講座下見

10月

- ・第4回講座
- ・環境フェスタブース出展
- ・次年度企画ミーティング

11月

- ・第5回講座
- ・第6回講座打ち合わせ

12月

- ・第7回講座打ち合わせ
- ・第6回講座

1月

- ・第7回講座、修了式
- ・サポーター登録

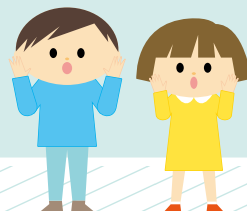
2月

- ・啓発パンフレット（Oh! 水）ミーティング（2回）

3月

- ・啓発パンフレット（Oh! 水）入稿
- ・次年度企画ミーティング

情報収集や下見、打ち合わせなど、毎週のように関係者が顔を合わせていました。





「水の学校」は、主管課が手掛ける下水道事業だけではなく、水源の保全、上水道事業、地形や気候、地域の歴史、世界の水事情など、水にかかわるあらゆる分野を視野に入れた取り組みです。そのため、立ち上げ時から現在に至るまで多くの方に支えられて、一つひとつの講座を実施してきました。ここですべてを紹介することはできませんが、「水の学校」の核を担ってきたみなさんです。

NPO法人雨水市民の会

1994年に東京都墨田区で開催された「雨水利用東京国際会議」の実行委員会に参画した市民（研究者・会社員・学生・市民団体メンバー・行政職員等）が母体となって発足した団体。行政・企業・大学等との連携により、雨水活用を中心に水循環や環境に関する市民向けイベントを企画・運営してきた実績があり、立ち上げからプログラム運営、職員の研修、広報など様々な場面で密に連携しながら事業を進めてきました。



笹川みちる

NPO法人雨水市民の会理事、
内閣官房水循環政策本部「水循環の施策に関する有識者会議」委員（2018年10月より）

環境学習施設やイベントなどで雨水活用や水循環について市民に伝える普及啓発事業に従事。「水の学校」初期の企画立案・運営を担当し、市担当課との二人三脚で現在の「水の学校」のスタイルができあがりました。



やとじい 平田英二

水路たんけんクラブ主宰（武蔵野台地の河川と谷戸の研究）、
練馬区文化財保護推進員・区民学芸員、石神井公園ふるさと文化館サポーター

武蔵野台地を中心に、川、用水やその痕跡、水に関わる地形を探访し、数多くのツアーガイドや講演を実施。中でも「谷戸」地形を語ると止まらないところから「やとじい」のニックネームがつきました。

2014、15、16年度の第5回会講座、2018年度の第4回講座を担当。武蔵野台地の成り立ちから市内の微地形まで、水という切り口で見ることで、見慣れたまちにも新しい発見があることを、まちあるきを通じて教えていただきました。



神谷 博

水みち研究会、NPO法人雨水まちづくりサポート理事長、
一級建築士、法政大学兼任講師

野川流域を中心に武蔵野台地の水のめぐりについて30年以上調査・研究を続ける専門家。2016、2017年度の第4回講座を担当し、武蔵野市周辺の湧水スポットを回りながら雨の行方と地下水の関係、地形と歴史の関係について幅広くお話をいただきました。

東京都下水道局流域下水道本部

流域下水道は、市町村の枠を越え、広域的かつ効率的な下水の排除、処理を目的としていて、幹線管きょと終末水再生センターの基幹施設からなります。東京都下水道局流域下水道本部では、流域下水道の建設や維持管理を行うとともに流域下水道と流域関連公共下水道の整合を図るために、関係市町に対して、技術指導等を行なっています。2016～2018年度の第3回講座と2015年度の公開講座で水再生センターの見学に対応していただきました。

武蔵野市 環境部各課、水道部、市各部署

「水の学校」は環境部下水道課が事務局として運営してきました。当課は限られた財源の中で、下水道施設の老朽化対策、都市型浸水や地震への対応、湧水復活などの多様な課題の解決に向けて取り組んでいます。下水道施設を持続させたり、よりよい水の循環をつくりだしたりするためには市民のみなさまのご協力が不可欠です。そこで当課では、「水の学校」をはじめとする啓発事業にも力を入れています。また「水の学校」は、環境部各課・水道部ほか市の各部署と連携し、協力を得て全体の事業を進めてきました。

奥多摩町 観光産業課

奥多摩町は、東京都の10分の1に当たる225.53平方キロメートルという広大な面積を有し、水と緑を大切に、人と自然との調和した潤いのある町です。こちらでは2014年度の第2回講座と2015年度の第3回講座で奥多摩町の水源の森をガイドしていただきました。また、大型バスが入れない緊急事態にも柔軟に対応していただきました。

小平市（ふれあい下水道館）、三鷹市（東部水再生センター、三鷹の水車「しんぐるま」）、国土交通省京浜河川事務所、下水道広報プラットフォーム
その他公的機関、教育機関、企業、市民団体など多数の方々のお力添えがあり運営を行ってきました。



6～12月まで6回の連続講座を実施。これが連続講座の基本的な形となりました。第5回では昨年度の受講生からのアイデアを元に「生活を支える水」という視点で三鷹の水車を訪ねました。後半から受講生・修了生のためのステップアップ講座が始まりました。

連続講座

1

6月13日(土) 開校式 ～もっと知ろう武蔵野の水、考えよう水とくらしの深い関わり

「水の学校」の概要説明の後、4択式の「武蔵野水クイズ」を実施。後半は橋本名誉校長の進行で、水の粒になって雲・海・地下水などをめぐる「驚異の旅」、架空のまちの上下水道の整備ルート・コストを考える参加型アクティビティ「正当な価格」に取り組みました。

事務局コメント

受講生からは「これからの講座が楽しみ」というコメントが多くあり、事務局として大いに励まされました。初仕事としてアクティビティをリードしたサポーターからは「上下水道のコストの問題は奥深い」「昨年より(プログラムに)進歩が見られました」といった声がありました。

2

7月25日(土) 使った水はどこに行く ～三鷹市東部水再生センター・小平市ふれあい下水道館見学

第2回、第3回講座は、新しい試みとして受講生・サポーターに加え一般参加の枠を設けました。使った水のゆくえを知ることが目的に、午前中は三鷹市の東部水再生センターで実際に稼働している処理施設を見学し、午後は小平市ふれあい下水道館を訪れ、現役の下水道管に入る体験をしました。

三鷹市は市内で排水される汚水の一部を市内で独自に処理していますが、武蔵野市は下水処理施設を持たず、汚水は市外3ヶ所にある東京都の水再生センターへ送って処理をしていることも参加者には新たな発見だったようです。



自治体として日本で初めて下水道普及率100%を達成した三鷹市。昭和40年代に下水道普及に力を注いだ市長・鈴木平三郎氏の言葉がセンター入り口に掲げられています。処理後の再生水は仙川に放流されており、武蔵野市内では瀬川(か)の箇所が多い仙川ですが、ここでは水量が豊かで参加者から驚きの声が上がっていました。



ふれあい下水道館では地下25mの下水道本管内部に入り、臭いや湿気を直接感じることができます。下水道は勾配をつけて汚水を運ぶ「自然流下方式」で作られているため、太い管ほど深いところを流れています。汚水と雨水を同じ管で流す合流式下水道なので、豪雨の際に急激に水量が増える様子を映像で見ることができます。

3

9月5日(土) 武蔵野の水はどこから? ～水を育む森の「むかし道」を訪ねよう

武蔵野市の水道原水の8割を占める地下水の源の一つである奥多摩町を訪ねました。バス車内で市職員が水源林保全活動について説明し、現地では地元食材を使ったお弁当を味わい、現地ガイドの案内で青梅街道の旧道「むかし道」をたどりしました。

事務局コメント

参加者からは、「離れていても大事にしなければと思った」「ずいぶん遠くから飲まれに来ていると思うと心苦しくなった」といったコメントがありました。全体を4グループに分け、奥多摩町の紹介による現地ガイドを手配したほか、市職員、サポーターを各グループに置き、奥多摩町職員の方にも案内と安全管理の面でサポートいただきました。





4 10月10日(土) 武蔵野を支えた水の力 ～水車見学と地粉うどん

ねらい

昨年度の最終講座で受講生が考えた「水の学校の未来のプログラム」を元に企画しました。かつて武蔵野台地にあった水車の仕組みと役割、当時の生活の様子を知ることができる構成となっています。市内で小麦栽培を復活させ食文化を伝える「武蔵野地粉うどんプロジェクト」の協力で、市内産小麦を配合した地粉うどんの試食も取り入れ、食を通じた親睦を図りました。

三鷹市大沢の野川沿いにある「大沢の里・水車経営農家(しんぐるま)」を特別公開に合わせて訪問しました。江戸時代から昭和40年代まで、製粉・精米などに使われていた水車が再現され、特別公開時のみ精米などの実演を見ることができます。稼働している様子はさながら水で動く工場のように、当時の技術力の高さに驚きの声が上がりました。

うどん屋さんでは、かつて市内でさかんに栽培されていた小麦を中心とした武蔵野の食文化についてのお話を聞き、地粉うどんを味わいました。皆で同じものを食べることで話はずみ、印象深い時間となりました。

事務局コメント

体験コーナーでは、石臼を手慣れた様子で回す受講生もいて、道具をきっかりに子ども時代の話などで盛り上がりました。「水車のイメージが変わった。水の力が伝わっていく様子が見事で感動した。」という感想や、試食サイズの地粉うどんについて「もっと食べたかった。今度お店に食べにきます。」という声もありました。



5 11月21日(土) 武蔵野の小さなでこぼこをあるく ～水害の理由とわたしたちができること



「やとじい」こと平田英二さんを迎え、武蔵野台地の地形の成り立ちをひも解き、市内吉祥寺北町の凹地(くぼち)を体感しました。後半は浸水被害とその対策について話し合いました。

事務局コメント

「点と線でしか街を見ていなかったが、面で捉えることができた」というコメントがあり、水との関わりで街を捉える面白さが伝わったという手応えを感じました。住宅街を歩いたので、10人弱のグループを各々サポーターが引率し、ディスカッションのリーダー役としても活躍しました。

6 12月12日(土) 最終講座・修了式 「水の学校」から始める武蔵野の未来の水

過去5回の講座を振り返り、「もっと深めたいテーマ」についてグループで話し合いました。仙川の復活、雨水活用、水質の見える化などについてアイデアが出されました。

受講生 **33名**
サポーター **19名**

公開講座・関連イベント

サポーターの協力を得て、ツアー、お祭り、写真展など様々な形で一般向けの講座・イベントに力を入れた年でした。関連イベントに5回参加すると「水の学校」記念バッジを贈呈する試みを行ったり、連続講座の一部にも一般参加枠を設けました。



記念バッジ

12月5日 (土) 多摩川河口域水上散歩

昨年度中止になった企画を改めて実施しました。参加予定だった方を優先受付し、午前の部9名、午後の部8名が参加しました。国土交通省京浜河川事務所の協力で河川管理船「けいひん」に乗り込み、川崎市幸町の船着場から六郷水門、羽田空港付近などを通して多摩川河口原点までを2時間弱で往復しました。



事務局コメント

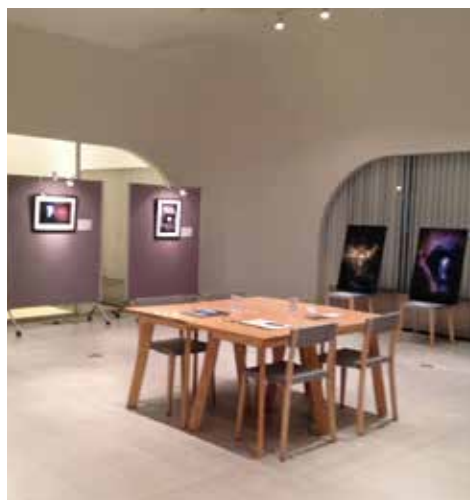
職員、雨水市民の会担当者が三鷹駅から参加者を引率しました。京浜河川事務所担当者のガイドで水門や橋、工場などの解説があり、川とくらしの関わりを身近に感じられたと思います。小学生から70代まで幅広い層が参加し、講座後に自分で多摩川の源流を見に行き、写真を持って下水道課に報告に来た方もいました。

オープニング
トーク
1月14日
(木)

写真展
1月16日(土)
1月21日(木)

下水道写真家 白汚 零 写真展「足もとに広がる地下水道」

新たな視点で下水道の魅力を伝えるねらいで企画・開催しました。はじめは人前でのトークにあまり積極的ではなかった白汚さんですが、打ち合わせで聞く話が興味深く、オープニングトークをお願いしました。写真展では、武蔵野市が管理する女子大通り幹線のほか、都内の下水道写真7点、全国の写真4点の計11点を展示しました。



事務局コメント

武蔵野プレイスのギャラリーにて実施したため、通りすがりに目を止める人も多くいました。スタッフ一同写真の展示は初めての体験で、作品の選定、専用の梱包と輸送、ライティングなど白汚さんご自身のサポートと立会いで実現にこぎつけた企画です。訪れた人から「地下にこんな空間があったとは知らなかった」「美しい」「面白い」といったコメントが寄せられました。

関連イベント

6月7日(日) 水道水はどうやって作られる？市内浄水場見学

吉祥寺北町の第一浄水場にて開催。4回の見学ツアーに186名が参加しました。浄水場職員が案内役となり、武蔵野市の水道水は、約80%を市内で汲み上げた地下水が占めていること、その処理工程、24時間休みなく水質・水量の管理を行っている様子を紹介しました。

6月20日(土) 多摩川の下にトンネルあり！下水道連絡管施設を歩こう！

小学生から大人まで31名が参加し、多摩川上流水再生センターと八王子水再生センターを多摩川の下でつなぐ地下トンネルを見学しました。「冒険みたい」という感想や、ここで処理した再生水が玉川上水へ送られているという説明に、驚きの声が上がりました。

9月26日(土) 日本初の近代下水処理施設、旧三河島污水処分場ポンプ場と水再生センター見学

1922(大正11)年～1999(平成11)年まで稼働していた日本初の近代下水処理施設の遺構と隣接する稼働中の水再生センターをバスで訪れ、見学しました。ポンプ場の建物や下水の流入部などの精緻な造りと、熱心なガイドに参加者も感嘆していました。

6月27日(土) 3R環境講座「紙すき体験」

7月18日(土) 関前公園とんぼ池のかいぼり体験

11月1日(日) むさしの環境フェスタ

ステップアップ講座

10月17日(土) 第1回「水循環・水収支」

11月28日(土) 第2回「川と上水」

12月19日(土) 第3回「下水道の施設更新・耐震化・使用料」

サポーター活動

3月5日(土) かいぼり・池底ツアー



サポーター発の初めての企画として、かいぼり中の井の頭池の池底を歩くツアーを行いました。井の頭線・鷹の台駅から出発し、市内の下水道管から神田川への雨水吐口、神田川源流部を見た後、NPO法人生態工房の方の案内で水が抜けた井の頭池の底を歩きました。弁天様の裏側ではチョロチョロと湧き出す水にみなさんから歓声が上がっていました。

サポーターが生態工房との連絡、参加の呼びかけを担当し、職員、雨水市民の会の担当者も一緒に参加しました。

3月5日(土) 仙川探検隊のためのミーティング 2016年4月2日(土) 仙川探検隊

お花見を兼ねて開催。水辺にまつわる昔話や「こんな空間にしたい」という未来のアイデアを話し合いました。仙川を考える取り組みは今も継続中です。



事務局カレンダー

4月
・パンフレット入稿
・初回講座打ち合わせ
・市報入稿

5月
・連続講座募集期間
・第3回講座下見

6月
・サポーターオリエンテーション
・初回講座

7月
・第2回講座打ち合わせ
・第2回講座

8月
・水えんにち
・第3回講座打ち合わせ

9月
・第4回講座下見
・第3回講座
・第8回国土交通大臣賞「循環のみち下水道賞」授賞式
・サポーターミーティング
・第5回講座下見

10月
・第4回講座
・サポーターミーティング
・ステップアップ講座第1回

11月
・環境フェスタブース出展
・第5回講座
・第6回講座打ち合わせ
・ステップアップ講座第2回

12月
・第6回講座、修了式
・サポーター登録
・ステップアップ講座第3回

1月
・白汚零写真展

2月
・サポーターミーティング

3月
・サポーターミーティング

サポーターが誕生！
外部への「水の学校」PR
にも力を入れました。



水えんにち

「水の日」に合わせ、8/1(土)に子どもから幅広く水に親しんでもらうイベントを開催しました。きき水体験、市内専門学校の学生さんによる「墨流しアート」体験などのほか、商店会の協力でかき氷とひつまみ汁の販売も行いました。サポーターが中心となって運営した「水でっぼうず的あて」、「スーパーボールすくい」も大人気、会場から5分ほどの第一浄水場でもこの日に合わせて内部の見学会を行いました。

事務局コメント

昨年度の最終講座で「子どもたちにも武蔵野の水のことを伝えたい」という声が多かったことから企画しました。受講生3名、サポーター6名が企画・運営に参加しました。事前準備では出展・協力先はもちろん、地元の商店会や保健所、テナント業者との調整も必要になりました。真夏の開催だったためスタッフの健康、安全管理などにも一層の配慮が求められるなど、単独でイベントを開催するのは負担が大きいことがわかり翌年度以降は実現していませんが、的あてや墨流しなどに途切れることなく子どもたちが訪れ、体験を通して水に親しんでもらう意義に改めて気がつききっかけにもなりました。

日時:8/1(土) 11:00~16:00

会場: 武蔵野市立中央図書館前庭・視聴覚ホール、武蔵野市第一浄水場

来場: 約1000名

主催: 武蔵野市

協力: 大野田商店会、管工事業協同組合、武蔵野美術学園



第8回国土交通大臣賞「循環のみち下水道賞」受賞



事務局コメント

対外的に評価いただき、事務局一同、さらによりものにしていこうと熱意が高まりましたし、市の職員にも「水の学校」が注目されるきっかけになりました。担当者が「2014年度の活動での受賞はみなさんへの賞ということ」とミーティングでお話しし、サポーター1期生のみなさんがとても喜んでくれたことが印象に残っています。

この年、2年目を迎えた「水の学校」が、循環のみち下水道賞(広報部門)・国土交通大臣賞を受賞しました。

循環のみち下水道賞は、下水道の使命を果たし、社会に貢献した好事例を表彰する国土交通大臣賞として平成20年度から毎年表彰を行っているものです。優れた取組みを広く発信することで、受賞者の功績を称えとともに、他の多くの団体等が同様の取組みを行い、持続的発展が可能な社会の構築に貢献する「循環のみち下水道」の実現を全国的に図ることを目的としています。9月には国土交通省内で表彰式が行われ、全国から集った受賞者、関係者の前で環境部長が「水の学校」についてのプレゼンテーションを行いました。



1 アイデア出し

水のニュースに気を配ったり、新しい視点で伝える方法を意識しています！

下水道課

関連部署

雨水市民の会

受講生・サポーター

質問や要望から講座が生まれることも多くあります。

連続講座

ラインナップは前年の秋頃から考え始めます。5カ年の積み重ねで、必ず伝えたい定番講座にその年の独自企画を1回は加えるというスタイルになりました。

日常生活に持ち帰って、水の巡りを感じられる流れをこころがけています！

オープン講座・ステップアップ講座

年度中に随時、サポーターからの提案などを取り入れながら企画します。発案から実施まで長い時は半年以上かかることもあります。

2 体制づくり

スタッフ編成

講座の内容から必要なスタッフの人数を割りだし、体制を組みます。講座は市民の声に直接ふれる大切な場となっています。

講師など

テーマに応じて外部講師や見学先の関係者に協力を依頼します。

サポーター募集

サポーターにも声をかけ、参加者を把握します。

3 打ち合わせ

講師、見学先などの関係者と打ち合わせをし、おおその流れを作ります。見学の見どころやワークショップのテーマについても案を出し合います。

スタッフ間の共有
当日のねらいを共有するために、「受講生からどんな言葉をききたいか、引き出したいか」という切り口で意見を出し合うこともあります。

当日のレポーター、グループワークの補助や解説を担当
下見に参加する場合があります

4 下見

下見後、必ず見せたい場所の確認や受講生に考えてほしいテーマなど細かい部分まで内容を決め込んでいきます。
施設見学では、事前質問を募集し、あらかじめ施設に伝えます。

施設見学

担当スタッフが事前に訪れ、見学先の担当者といっしょに一通り下見をします。パンフレットなどの配布資料も確認、手配します。

ツアー、まちあるき

水源地の奥多摩町訪問、武蔵野台地の湧水めぐり、市内まちあるきなどは、候補ルートになるべく当日と同じ条件で時間を測りながら回ります。スタッフがコースを把握するとともに、歩く距離やスピードに無理がないか、バスの手配に必要なことなどを確かめます。

チェックリスト

- ☐ 雨の日の対応
- ☐ 食事やトイレの場所・タイミング
- ☐ バスのルート、乗降場所
- ☐ 病気・ケガなどの対策
- ☐ 緊急時の対応
- ☐ 時間配分の確認

行きたい場所が多い場合は下見で絞り込むこともあります。少人数の下見で見られない場所を特別に見学できることもあり、大変ながらも楽しいプロセスです！

サポーター打ち合わせ

内容に応じて、事前に打ち合わせをして各自準備をお願いしたり、当日早めに集合して役割の確認をします

5 役割分担

レジュメ

講座のテーマ、おおその流れをまとめます。連続講座の場合は、A4の上半分にその日の予定、下半分は次回の予定や持ちもの、当日の連絡先を記載します。

解説資料・ワークショップ道具など

講座のテーマに応じて解説資料を準備します。外部講師や見学先の施設の方に依頼したり、既存パンフレットも活用します。まちあるきの場合はルート図を作成し、WS用に書き込み式のシートを用意することもあります。ワークショップの内容に応じて、模造紙やふせん、マジックなども準備します。

事務局

- ・進行
- ・撮影
- ・タイムキーパー

WS進行

- ・専門的解説
- ・施設ガイド

外部等

安全管理

- ・ニュースレター用レポーター

サポーター

もちろんこの通りに進まないこともあります、みんなの拠り所です！

進行表

大勢のスタッフがスムーズに動くために当日の準備、本番、片付けまでを大きな一覧にしたものです。いつ何をするか、その時に準備するものや担当者が書かれています。

6

講座本番!!

がんばろう！



2016年度の活動



2016年度の修了バッジ

委託先の雨水市民の会に代わり、市職員が講座の進行やワークショップのファシリテーションを担当するようになりました。「職員研修」の形で環境部の各課から集まったメンバーが回ごとにチームを組んで、講座の運営を行いました。

連続講座

1

6月11日(土) 開校式 〜もっと知ろう武蔵野の水、考えよう水とくらしの深い関わり

この年の開校式では下水道課長から下水道の歴史と「水の学校」の意義を話し、講座内の参加型ワークでは、仮想の街の地下水のヒ素汚染の原因を探りました。

事務局コメント

この年からは各講座について、市職員が司会やアイズブレイク(クイズ等)の進行を行いました。堅い会議ではなく、柔らかく楽しい雰囲気にするために、最初の挨拶と笑顔が大事という雨水市民の会からのアドバイスは、その後の講座づくりにも受け継いでいます。

2

7月2日(土) 武蔵野の水はどこから? 〜水道水がつくられる場所を訪ねよう

水道部職員から武蔵野市の水道事業の概要を説明した後、第一浄水場内見学を行いました。浄水場内でしか体験できない地下水100%の水を試飲したり、給水バッグの重さを体験したり、まちなかにある水源井戸の見学も行いました。ワークショップでは、3種類の水の飲みくらべを実施し、更にペットボトルのラベルを読み解きながら違いについてグループで話し合い、解説を行いました。普段の水の使い方を振り返り、今後どうしていくかアイデアを出し合いました。

ねらい

普段自分たちが使っている水道水がどのように安全な水質を保ち、安定して作られているのかを知り、生活の中での水の使い方を問い直すこと、また、様々な水を味わうことで水に関して更に関心を持つことをねらいとしました。

事務局コメント

熱心な受講生は、受講前から水に思い入れがあるのかと思っていましたが、話を聞くと市報や無作為抽出の案内で講座を知るまで関心はそれほどなかったとのことでした。「水の学校」に参加したことで水の大切さが分かり興味が湧き、その後サポーターとなり活躍をしている方もいます。



3

9月10日(土) 使った水はどこに行く? 〜多摩川上流水再生センター見学



多摩川上流水再生センター見学後、多摩川の川底下の連絡管を歩き、対岸の八王子水再生センターを見学しました。実際に下水処理に働いている微生物を顕微鏡で観察することもできました。

事務局コメント

往路の交通渋滞で30分ほど遅れました。ワークショップの時間が取れず、帰りは高速道路を使ったものの、解散予定時刻を過ぎてしまいましたが、帰りのバス内で、その日の皆さんの感想を発表したことで、他の受講生がどう感じたかも分かり、バスの中で一体感を感じる瞬間でもありました。



10月1日(土) 「流域」で考える、雨とまちの関係 ～野川の取り組みと武蔵野台地の水循環

ねらい

下水道は、汚水と合わせて雨水を排除する役割を担っていますが、都市化により全体の水循環のバランスが崩れ、様々な問題が起きています。この講座では、雨は降った後にどこへ行くのかを意識し、自分たちの生活と他市を含む流域との関係を知ることがねらいとして、仙川、野川、深大寺の現状を見学しました。

事務局コメント

現地説明では後ろの方に聞こえない場面もありました。ビニールシートを敷いての昼食は受講生同士の距離も少し縮まるようです。受講生に対して「伝える」ということを重視しすぎてしまったように感じていましたが、感想を読むと受講生はそれぞれに「気づき」を持っていることが分かりました。

神谷博さんを講師に、雨のゆくえと地形、湧水について考える講座を行いました。まず桜堤公園で市職員から仙川リメイクの説明をした後、武蔵国分寺公園に向かい、国分寺の史跡や湧水群、真姿の池、万葉植物園の見学をしました。野川公園に移動して昼食をとり、湧水広場や自然観察園を見学しました。さらに深大寺に移動して史跡や湧水の見学を行いました。多くのポイントを回るため、移動にはバスを使用しました。ワークショップでは「雨」「野川公園」などテーブル毎にテーマを設定し、順にテーブルを移動しつつ気づいたことを話し合いました。



11月19日(土) 玉川上水と神田川 ～武蔵野台地の水事情を探る

神田川源流部、玉川上水の散策を通して地形や川と上水の成り立ちの違いを学び、「武蔵野市内の水の流れと、市民にできることを考える」をテーマに話し合いを行いました。

ねらい

50m崖線の湧水を水源に武蔵野台地をもとから流れていた自然河川「神田川」と、台地の背を引いた人工河川の「玉川上水」の比較を通して、市内の10mぐらいの高低差の間で、雨水を浸透や貯留などの手法でどれだけゆっくり流すか、講師の平田英二さんと共に意義と課題を探りました。



12月10日(土) 最終講座・修了式 「水の学校」から始める武蔵野の未来の水

最終講座ではこれまでを振り返り行動や意識の変化を共有し、さらに水に関してやってみたいこと、深めたいことを話し合い、発表しました。水の学校サポーターからは活動事例の紹介がありました。

事務局コメント

全6回の講座を通じ、受講生が「水」について深く学び、今後も意欲的に「もっと学びたい」「人に伝えたい」と感じていることを知りました。一方で、市と一緒に自分たちが何かをするという結びつきの意識はまだ弱いように感じました。市民の力が必要であることを、もっと表現できると良かったと思います。



受講生34名
サポーター17名

オープン講座・イベント

サポーター活動が本格化し、8月にはサポーターが企画の中心となって一般の方に水のことを伝えるオープン講座を2回開催しました。サポーター同士の年度を超えた交流も深まり、東京近郊の湧水をめぐる自主企画が多く開催されました。



8月12日
(金)

オープン講座「地下 25m の地底探検と玉川上水に出かけよう」

バスで小平市ふれあい下水道館に向かい、館を見学した後、東京都薬用植物園までの4km弱、玉川上水沿いを散策しました。サポーターは参加者の理解が深まるようなバス内プログラムや道中の案内を行いました。



事務局コメント

本番には参加できないサポーターも下見に同行して散策ルートの見どころを共有しました。また、暑い時期のため、熱中症への対策として、無理せずお互いのよく様子を見ながら歩けるように、参加者同士での注意喚起を促し、こまめな休憩と水分補給を呼びかけました。万が一に備えて付近の医療機関の下調べも行いました。次年度からは散策は気候の良い時期に行い、暑い時期は座学としています。

8月23日
(火)

オープン講座「小学生のための浄水場見学＆水質講座」

小学生と保護者を対象に、武蔵野市の水道の概要についての説明に続いて浄水場内を見学し、水質実験を行いました。実験では水道水とミネラルウォーターの飲み比べのほか、雨水を加えた3種類についてpH、硬度、残留塩素を測定しました。サポーターが説明や実験のフォローを行いました。



事務局コメント

「水の学校」サポーターの企画で、講座の構成決めから何度も打合せを行い、会場で実験の予行も行いました。浄水場の見学資料は、小学生にもわかりやすいようにと教員経験のあるサポーターと一緒に考えて変更を加えました。小学生を主な対象としながら、一緒に参加した保護者の方も熱心に質問していたのは意外でした。水の学校では若い世代の啓発を課題としていましたが、新たな道が見えたようにも思いました。

サポーター活動

湧遊会

「水の学校」を修了した有志のみなさんの「湧遊会」という親睦グループが都内の湧水めぐりの活動をしています。身近な湧水の現状を知るとともに、参加者同士の親睦を深め、水にまつわる様々な情報交換を行っています。湧遊会で散策したコースは、その後の連続講座やステップアップ講座のコース決めにも活かしています。

- 5月7日(土) 田村酒造見学と羽村の水めぐりツアー
- 6月18日(土) お鷹の道・真姿の池湧水群
- 9月17日(土) 善福寺〜有栖川宮記念公園、都心の湧水めぐり
- 10月15日(土) 江戸の情緒が漂う水辺の下町散歩
- 11月26日(土) 東京都水道歴史館と東大キャンパスの紅葉
- 2月28日(火) 都立農業高校の神代農場見学
- 3月25日(土) 湧水と桜花をめぐり散策会



サポーター同士の情報交換

水にまつわる講演会等の情報として、かいぼり報告会、武蔵野市郷土史会、雑学大学、玉川上水を守り育てる武蔵野市民の会、むさしのFMへの生放送出演などの情報をサポーターメーリングリストで共有しました。

サポーター自主活動への職員の関わり

職員もサポーターメーリングリストに参加し、自主活動にも時々顔を出しました。自主活動ではサポーターが主導で、先生役でもあります。毎回、サポーターのみなさんは職員を優しく迎え入れてくれます。

エコプラザ(仮称)への関わり

市民の環境活動の拠点として2020年度に開設を予定している、エコプラザ(仮称)に関する検討市民会議の委員として1名のサポーターが継続して関わっています。

事務局カレンダー

- 4月
- ・パンフレット入稿
 - ・市報入稿
 - ・サポーターミーティング
 - ・初回講座打ち合わせ

- 5月
- ・連続講座募集期間
 - ・「水の学校」パネル展示
 - ・職員研修オリエンテーション

- 6月
- ・第2回講座打ち合わせ
 - ・初回講座

- 7月
- ・第2回講座

- 8月
- ・第3回講座下見
 - ・オープン講座(2回)

- 9月
- ・第3回講座
 - ・第4回講座下見

- 10月
- ・サポーターミーティング
 - ・第5回講座下見
 - ・第4回講座

- 11月
- ・第6回講座打合せ
 - ・環境フェスタブース出展
 - ・第5回講座

- 12月
- ・第6回講座、修了式
 - ・サポーター登録

- 1月
- ・サポーターミーティング
 - ・職員研修まとめ

- 2月
- ・サポーターミーティング

- 3月
- ・ステップアップ講座

担当が変わり、
1年の流れを
つかむのが
やっとでした。



職員研修

市では様々な分野の啓発事業を行っており、課題解決のために市民との協働が求められる場面も多くあります。この年は、市民協働型の企画立案・実施を行うためのスキルを身に付けることを目的として、NPO法人雨水市民の会の笹川みちるさんを講師に環境部の啓発担当者向けに、水の学校を実践の場として職員研修を行いました。

オリエンテーション

研修目的を共有したのち、アイスブレイクでペアインタビュを行い、お互いの理解を深めるとともに「アイスブレイクとはどんなものか」を体感しました。
その後、「水の学校」の全体の構成と、研修の進め方について説明があり、研修で使うワークシートを練習で記入しました。
1人1講座担当することで、1回の講座につき2～3人が研修を行うこととなりました。

講座の役割分担

「今回の研修で学びたいことにふさわしい役割か」「所属する課の事業をPRできるような場面はどこか」を踏まえながら、「司会」「アイスブレイク」「ワークショップのファシリテーター」「記録」を分担しました。

ワークシートを用いた事前打合せ&事後振り返り

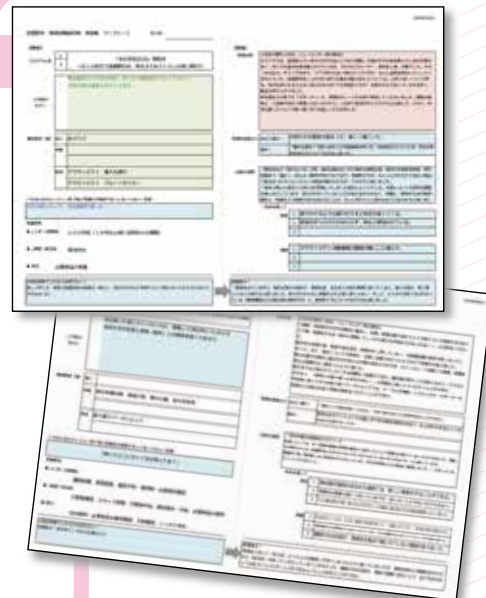
自身が担当する講座について、ワークシートを中心に事前打合せと事後振り返りを行いました。

1. [講座3日前までに]ワークシートの左側に記入→講師に送付

その回の研修生同士で打ち合わせを行い、「ねらい」「構成要素：導入（アイスブレイク）・体験・参加」「いちばん伝えたいこと」を確認してから、各自、研修を通してこれだけは学びたい!と思う目標を設定します。

2. [講座終了後2週間以内に]ワークシートの右側を完成→講師に送付

各自、「当日の要約」「受講生感想からねらい通りの感想、意外だった感想」「自身の最も印象的なエピソード」「全体を通しての発見・課題」「事前ワークシートで立てた目標の到達度」を記入し、研修メンバーで共有しました。記入内容の一部は水の学校ニュースレターの原稿としても使用しました。



まとめ

研修を通して、スタッフの打合せ不足などの課題を感じた場面もありましたが、自由に意見を出し合う場づくりの大切さや手法に気づいたり、受講生や他部署職員など多様な視点が加わることで、職員側の理解も進むなどの成果がありました。今後の講座については、下水だけの視点にとらわれない、環境全体への視点が大事だという気づきもありました。これらの振り返りを踏まえた研修成果発表として、プログラムの企画提案を行いました。

テーマ：「水」を切り口にした環境部による啓発講座シリーズ～武蔵野市の水と生活

講座の中で受講生の発言の機会を設け、「自ら考える」という講座の進め方が受講生の満足度向上につながる事が非常によく分かりました。

今回学んだ講座の進め方は自分の課の事業でも生かしていきたいと思っています!!

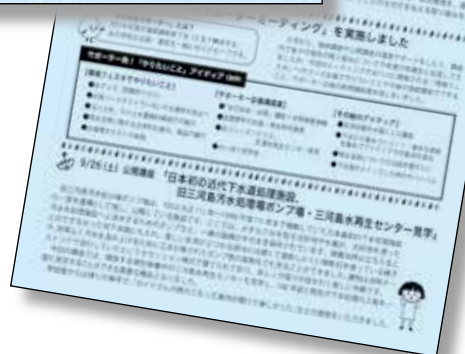
今回の研修で水の循環はどの程度やったことがないことを体験できてよかった。環境について、もっと知識を高める必要を感じた。



「水の学校」では、活動の様子や水にまつわる豆知識をニュースレターで発信しています。広く公共施設等で配布し、市公式ウェブサイトに掲載するほか、市内の高校、大学などにも送付しています。

ニュースレター発行の目的は、講座を受講していない一般の方が読んで、水の循環に興味を持っていただくことです。表現のわかりやすさ、デザインの親しみやすさに配慮することはもちろん、全く初めて「水の学校」を知る方でも講座の概要が把握できる文章構成になるよう心掛けています。講座に参加した方にとっても、講座では伝えきれなかった情報を得られる「水コラム」を掲載しています。コラムでは武蔵野市の上下水道や地形、水収支、森林整備の取り組みや都内の湧水、世界の水事情、水の汚れの指標や体内の水分布の話まで、その時の講座とかかわりのあるさまざまなテーマを取り上げています。

2017年度から講座レポートをサポートが執筆しています。最初のうちは形式を決めずに原稿依頼をしていましたが、初めてニュースレターを手取る方に伝える文章として情報不足になることを防ぐため、2018年度からは共通の様式を作成し、執筆する側も何を記載すればよいかわかるしくみとしています。



制作方法の変遷

雨水市民の会

「水の学校」立ち上げ当初は、雨水市民の会が委託内容の報告書を兼ねて原稿を作成・編集し、下水道課が校正を行っていました。

市との協働

市職員が原稿案を作成し、雨水市民の会が編集を行うようになりました。

サポーターへの執筆依頼

サポーターが各講座のレポーター役になり、分担して原稿を執筆するようになりました。編集は雨水市民の会が行っていました。

市・サポーターで執筆・編集

Excelで編集を行えるようにしたことで、編集作業を市が行えるようになり、作業の効率と持続性が高まりました。

事務局コメント

制作方法が変遷する度に、ニュースレター発行の目的や、形式などについてNPO法人雨水市民の会との認識のすり合わせを行いました。市職員は異動があり、サポーターも毎回違う方に原稿をお願いするため、本来の目的にかなったニュースレターを継続して発行できるよう、フォーマットの整備を行いました。今となっては市の「水の学校」担当職員も過去の講座の内容を確認するために使用するなど、貴重な記録資料となっています。



2017年度の活動



下水道課の職員が講座の企画から当日の運営までのほぼ全てを担う形となりました。水の源、水の行方という広い視点の水循環に加えて、第5回講座では武蔵野市の下水道事業として取り組んでいることを紹介しました。

2017年度の修了バッジ

連続講座



6月17日(土) 開校式 〜もっと知ろう武蔵野の水、考えよう水とくらしの深い関わり

開校式に続いての橋本名誉校長によるアクティビティは、恒例の体験プログラム「驚異の旅」に浄水場などの人工の施設を加えた「プルトラベラー」と、架空のまちに上下水道を敷設し費用を計算する「正当な価格」でした。受講生からは「細かい条件がほしい、現実には忠実でない」など、真剣に取り組むがゆえの意見がありました。

事務局コメント

冒頭の「むさしの水クイズ」はサポーターによる進行・解説を行い好評でした。サポーターは午前中から集まって打合せとリハーサルを行い、本番に備えました。また、早いうちから交流を深めようと、初回講座後に交流会を行いました。



7月8日(土) 武蔵野の水はどこから? 〜水道水がつくれる場所を訪ねてみよう

市民の暮らしに欠かせない水道水について、浄水場や水源井戸を見学し、アクティビティでは各受講生が水を利用する企業等になったと仮定して、河川や地下水の利用配分量について考え実践しました。ワークショップでは水の使い方について改めて見つめ直し、今できることについて意見を交換しました。

事務局コメント

最新技術を取り入れる一方、水質管理に金魚が指標のひとつとして使われていることにとても驚きがあったようです。プロジェクトWETのアクティビティでは雨水市民の会の笹川さんが講師となり、「水差しまわそう」を実施し水利権について学びました。わかりやすい体験でしたがもう少し大人扱いしてほしいとの意見もありました。



9月9日(土) 使った水はどこに行く? 〜森ヶ崎水再生センター見学



武蔵野市の汚水の処理をしている3か所の水再生センターのうちの1つである森ヶ崎水再生センターを見学しました。三鷹駅で集合し、バスで向かう道のりの長さに、受講生からは「自分たちの流した下水もこんな長旅をするのか」と驚きの声がありました。往路バス内で受講生各々の「水に関するエピソード」を聞くと、発展途上国での上水道設計の経験の話などもあり、受講生の層の厚さを感じました。見学後には「友人・家族に伝えたいこと」をテーマに受講生同士での話し合いをしました。

受講生コメント

武蔵野市の汚水は、自前の処理施設を持たず、他地域に依存していることを市民はもっと自覚して節水を心がける必要があります、他の市民にも伝えていきたい。

事務局コメント

下水を受け入れた水再生センターが排出するものは、大きく分けて「再生水」と「汚泥」の2つです。汚泥処理の現状や、有効利用について興味を持つ受講生やサポーターも多く、経費や需要状況などについても質問が上がっていました。



4 10月14日(土) 雨のめぐりから考える、武蔵野台地の地形・湧水・川 ～仙川・野川と国分寺崖線

ねらい

仙川・野川・深大寺を見学し水循環の現状を知ってもらい、生活と流域(他市)との関係・つながりを意識してもらうことに重きをおきました。また、これらを踏まえ、次回の施設見学につながる講座としました。

「水の学校」4年目にして初めての雨の中での講座で、お昼は残念ながら大型バスの中でしたが、トラブルなく進めることができました。事前打合せでは①お弁当を忘れた場合どこで購入するか②バスの中でのプログラムについて③見学中の大型バスの待機場所の手配などを主に注意しました。反省点としては、どのくらいの距離を歩くのかなどをきちんと受講生に予め伝えておくことが必要と感じました。



5 11月18日(土) まちを守る下水道施設 ～武蔵野市内地下施設見学ツアー

ねらい

“浸水対策で市民には浸透ますの設置依頼をしているが、市はどんな取り組みをしているのか?”受講生の疑問をきっかけに講座を組みました。市民の生活環境が見えないところで守られる仕組みや、豪雨による浸水被害の現状を知り、さらに合流式下水道の問題点や豪雨対策の難しさを理解し、雨を含めた自然の水環境とうまくつきあう方法を考えるきっかけとすることをねらいとしました。

下水道課職員が講師となり、吉祥寺東町の合流式下水道改善施設内部の見学、吉祥寺北町雨水貯留施設周辺の特徴的なすりばちくぼ地の見学と施設概要に関する講義を行いました。その後、「武蔵野市内の水の流れと、市民にできることを考える」をテーマにワークショップを行いました。

受講生コメント 市に大きな施設があるのを知らなかったの、来て良かったです。

事務局コメント 質問に答えるため、職員も事前に図面を見るなどしてよく調べて臨みました。結果的に複数の職員が説明できるようになり、スキルアップにつながりました。



6 12月16日(土) 最終講座・修了式 「水の学校」から始める武蔵野の未来の水

橋本名誉校長を講師に最後のグループワークを行いました。修了式では松本市長からこれからへの期待と激励の言葉と共に修了証が渡され、新たな修了生のみなさんが誕生しました。

事務局コメント 10月、市長が変わったことにより、事前打合せでは水の学校の概要から説明しました。全6回の講座を受けて受講生からは、今まで気にしていなかった水循環を意識するようになったなどの感想が多く寄せられました。

受講生 **27名**
サポーター **14名**

オープン講座・イベント

講座を考え、運営するための研修を行ったり、サポーター主導で連続講座の内容を深めるステップアップ講座を企画するなど、お客様の立場ではなく、主体的に「水の学校」に関わる仲間が増えてきたことを講座のラインナップからも実感することができました。



5月20日
(土)

プロジェクト WET エducーター講習会

例年、第1回講座では水について体験しながら楽しく学べるアクティビティを取り入れています。この元になっているのが「プロジェクトWET」。世界中で活用されている水教育プログラムです。誰でも、エデュケーターの資格を取ることで、このプログラムを使って講座を行うことができるようになります。丸1日かけた講座で職員・サポーターなど14名がエデュケーター資格を取得しました。



事務局コメント 「水の学校」サポーター向けにエデュケーター資格取得のための講習会を行い、職員もスキルアップのために一緒に受講しました。資格はその後の講座やイベントで活かされています。

10月21日
(土)

ステップアップ講座 世田谷区・国分寺崖線の湧水めぐり

サポーター企画の一般向けか、上級者向けの講座をした、という話からいくつか候補が上がった中で、特に連続講座との関連を学べるということで選ばれたコースが、市内を流れる仙川の「その先」。野川との合流地点、そして多摩川との合流地点までを追うツアーを行いました。講師は都内の湧水をめぐり「水の学校」サポーター有志「湧遊会」の草木さん。自ら足を運んで確かめた豊富な知識と巧みな話術が人気です。



事務局コメント 世田谷区は、世田谷トラストまちづくりという財団があり、そのおかげもあって湧水周辺の自然環境が守られています。お金があるかどうかは、重要なことなんだという参加者の感想が印象的でした。

関連イベント

8月8日(火) 校庭の下に巨大施設あり！雨水貯留浸透施設見学会(千川小学校)

市では小学校の校庭地下に雨を一時的に蓄え、浸みこませる施設を設置しています。大きく掘った校庭の地下に、部品を積み上げる様子を見られるチャンスは工期の中でも1日。「写真では本当に埋めていると信じられなかったが実際見るとよくわかる。もっといろいろな人に実際に見て欲しい」との声も。

12月22日(金) 女子大通り幹線管渠更生工事現場見学会(女子大通り<三中北側>)

多くの家庭からの下水を集める太い管を幹線と言います。幹線が耐用年数を迎えた場合、取替え工事を行うと長期間にわたって下水道が使用できず、地域の住民に大変な不自由を強いることになります。そこで下水を止めずに流したまま内側から管を更正し、寿命を延ばす工法が用いられています。管内の映像を地上からリアルタイムで見ながら見学を行いました。

5月3日(水・祝) 武蔵野ファミリーフェスタ環境部ブース出展(井の頭公園西園)

5月20日(土) 水防訓練(市立むさしの市民公園)

9月3日(日) 吉祥寺東部フェスティバル(本宿小学校)

サポーター活動

4月27日(木) 神代農場見学

サポーターの草木さんがメンバーに呼びかけ、参加者16名が調布市にある神代農場、神代自然公園、調布野草園を見学しました。農園の中は、チョロチョロと湧水が流れており、昔は今よりも多かったとの草木さんの歴史を感じる説明に耳を傾け、うなづく場面が多く見られました。農園内では、カタクリやタケノコ、ワサビの栽培も行っており、自然に満ち溢れた緑の空間の中、深呼吸がいつもより自然と大きくなりました。



8月25日(金) 武蔵野市クリーンセンター見学会と意見交換会



この年の4月に稼働を始めた新クリーンセンターについては、サポーターミーティングなどでも度々話題となっていました。エコプラザ(仮称)検討委員会にサポーターが委員として入っていることもあり、見学会と合わせて、エコプラザについて自由に意見交換を行いました。現在のクリーンセンターは、平日日中なら誰でも見学することができます。団体の場合、事前申し込みにより解説を行うこともできます。

他の環境分野との関わり

サポーターのうちの1名が武蔵野市環境市民会議の第10期の委員として、市の環境保全に関する基本的事項を調査・審議しています。その他にも、さまざまな環境団体に所属し活躍しているサポーターもいます。

事務局カレンダー

- 4月
- ・パンフレット入稿
 - ・市報入稿
 - ・サポーターミーティング

- 5月
- ・初回講座打ち合わせ
 - ・連続講座募集期間
 - ・ファミリーフェスタ出展
 - ・プロジェクト WET 講習会

- 6月
- ・第2回講座打ち合わせ
 - ・初回講座

- 7月
- ・第3回講座下見
 - ・第2回講座
 - ・サポーターミーティング
 - ・下水道展ミーティング、リハーサル

- 8月
- ・下水道展ブース出展

- 9月
- ・第3回講座
 - ・第4回講座下見
 - ・ステップアップ講座下見

- 10月
- ・第4回講座
 - ・第5回講座下見
 - ・ステップアップ講座

- 11月
- ・第6回講座打合せ
 - ・環境フェスタブース出展
 - ・第5回講座

- 12月
- ・第6回講座、修了式
 - ・サポーター登録

- 1月
- ・サポーターミーティング

- 2月
- ・サポーターミーティング

- 3月
- ・サポーターミーティング

外部のイベント出展のための調整が多い年でした。





下水道展に武蔵野市が出展する意義は、下水について知ってもらうことではなく、武蔵野市独自の取り組みを全国に知っていただくことにありました。市民とともに講座を作り、行動につなげる「水の学校」、そして「合流式下水道改善施設」を体験しながらわかるブースを目指しました。ブース運営とあわせて行われた、下水道展のシンポジウムでの事例発表をきっかけに、国土交通省の「下水道の市民科学」プロジェクトのモデル調査先都市に選ばれ、第5回講座での委員の視察につながりました。

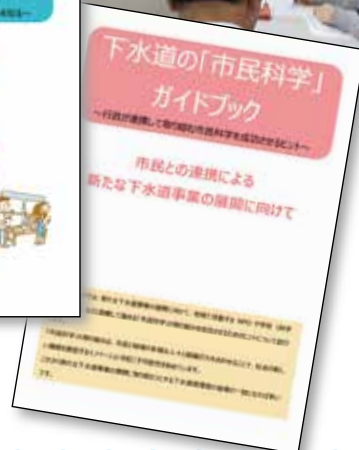
「子ども向けに」という主催者側からの意向を踏まえて、小学校低学年でも楽しめるアクティビティを考えました。連続講座で実施した体験プログラム「驚異の旅」を武蔵野市版にアレンジし、教員経験のあるサポーターとともに子どもを惹きつけられるような進行を作りました。また、今まで大人をターゲットにしていた配布物を子ども向けに改めました。すべての漢字にふりがなを振り、表現をわかりやすくしつつ、正確さを保つことに苦労しました。

出典期間中はブース運営、シンポジウムでの事例発表のほか、下水道展と虹の下水道館をめぐる親子向けバスツアー、視察対応、さらに通常の下水道課業務と、同時期に集中して人手が必要になり、下水道課職員全員の予定を調整して乗り切りました。



下水道の市民科学

「水の学校」サポーターの活動が広がりを見せた2017年度ですが、今後については、市との関係を保ちながら継続・発展していけるかどうか、仕組みづくりの再検討が必要な時期に差し掛かっていました。そんな時に声がかかったのが、国土交通省がすすめる「下水道の市民科学」(市民が調査研究に参加する)のモデル調査でした。市とサポーターをはじめとする市民にとっては、全国の状況を知るだけでなく、活動を広く市外にも発信するチャンスとなります。また、これまで関心があっても手法がわからずまとめることができなかったテーマに取り組むための一つの選択肢となります。この年の第5回講座では国土交通省の「下水道を核とした市民科学プロジェクト」の有識者メンバーが講座内容の視察を行い、講座後にはサポーターとの意見交換会を行いました。





「水の学校」のサポーターは連続講座の修了生で構成されており、その活動には、大きく分けると以下の3つがあります。

- ①自主活動：興味関心のあることを1人または他のサポーター等と一緒に調べて知識を深め、共有する
- ②講座にかかわる：講座の企画・運営に携わる
- ③伝える：今までにない「伝える」手法の提案や市以外の主催イベントに出展・発表する

連続講座で学んだことから更に知識を深めていくために、どのような取り組みを行うか、あるいはどのように伝えれば今後の連続講座が一層充実したものになるのかなど、多方面の視点から自由に提言できるミーティングを開催しています。

ミーティングは各自で自主的に取り組んでいる水にまつわる活動の情報交換の場にもなります。

受講生やサポーターからの声がその後の講座の内容を変えることもあります。

例えば、「水の学校」3年目に受講生から「もっと市の事業が知りたい」という意見が出ていましたが、どのように講座に取り入れるか具体的には決まっていませんでした。サポーターミーティングにおいて、サポーターから「普段なかなか目にすることができない市内の大型貯留施設の見学を入れてはどうか」という意見が出され、4年目の連続講座で実現させた実績があります。参加した受講生からは、「施設見学を通じて下水処理の重要性を認識することができた」「有意義で良い体験ができた」といった声が多く寄せられました。

ミーティングは、今後の連続講座やイベント、自主活動を充実させる、市とサポーター双方にとって意義のあるプロセスです。

事務局コメント

サポーターの自主的・自発的な行動が「水の学校」の重要な一部となっています。

ミーティングはインプットとアウトプットを兼ね備えた場であり、それぞれのサポーターの得意分野を十分に発揮できる場でもあります。

サポーターミーティングに参加していると、市長が連続講座の修了式で「修了証であり卒業証ではありませんよ!」という意味が、とても良く理解できます。また、サポーターのイキイキした発言がとても印象的で、職員も水に関する知識が深まります。

今までのサポーターミーティングでのテーマ(抜粋)

- ・「環境フェスタ」でやってみたいこと
- ・武蔵野市の水循環・水収支について
(武蔵野市の水をとりまく課題の共有)
- ・「連続講座」の役割分担について
- ・今後の「連続講座」でできること・やりたいこと
- ・イベントブース出展
(井の頭公園100周年、下水道展、環境フェスタなど)について
- ・「水のまちあるき地図(仮)」を作ろう
- ・まちあるき、イベント、地図作りを考える
- ・湧水に関する冊子づくりについて
- ・下水道展と子ども向けプリントについて
- ・今年度開催予定のイベントについて
- ・サポーター自主活動報告
- ・武蔵野市の現在の施策、これからの計画、課題





2018年度の活動



無作為抽出による周知を増やしたこともあり、これまでで最も多い40名が受講しました。受講生の年齢もバックグラウンドも様々ですが、運営側のスキルアップもあり、グループワークもスムーズに進むようになりました。第4回のまちあるきではサポーターが解説役を務めました。

2018年度の修了バッジ



連続講座

1

6月9日(土) 開校式 〜もっと知ろう武蔵野の水、考えよう水とくらしの深い関わり

開校式では松下市長から受講生へ激励の言葉、続く講座では橋本名誉校長による水循環アクティビティとサポーターによる「むさしの水クイズ」が行われました。

事務局コメント

「みなさんこんにちは!」で今年もスタートした連続講座。6割以上が無作為抽出で参加された受講生であり、講座後の感想として「水の動きについて体験的に実感できて興味湧いてきた」「今後の講座がわくわくする」などといった声が多く寄せられました。

2

7月7日(土) 武蔵野の水はどこから? 〜水道水がつくられる場所を訪ねてみよう



普段何も考えずに蛇口をひねれば出てくる水道水は、私たちが使う水、飲む水として大切な役目を果たしています。この講座では、市の第一浄水場の見学や、飲み比べて水の違いを発見し、断水時の水を考えるワークショップを行いました。

事務局コメント

浄水場の見学では、「普段は入らないところを見学できたのでうれしかった」「普通に使っていた上水を供給するまでにこんなに多くの手間をかけていることを知り、ありがたい」などの感想がありました。ワークショップでは、雨水市民の会の高橋朝子さんが講師となり、非常時に使える「ろ過装置」を受講生が作成し、「ティッシュでこんなに水がきれいになるなんて」などビックリしていました。今回の受講生は若い方が多く、熱心に学んでいるのが水に対する関心の高さを感じました。

3

9月8日(土) 使った水はどこに行く? 〜多摩川上流水再生センター見学

バスで多摩川上流水再生センターを見学し、川底の下の連絡管を歩いて八王子水再生センターへ向かいました。見学後の質疑の時間には半数以上の受講生から質問があり、充実した時間となりました。

事務局コメント

受講生から事前に質問を集めておき、当日水再生センターに到着した時に回答を配布してから説明や見学を始めたことで、より理解を深めることができました。往路バス内ではサポーターが進行役となり皆さんの水の思い出を聞きました。また、7月の講座の宿題となっていた各家庭での水利用の解説もサポーターが行いました。



4 10月13日(土) 武蔵野台地の水のみちをたどる ～神田川、仙川、玉川上水と千川上水

ねらい

水の学校が一つの区切りを迎えるこの年に、当市にとって地理的・歴史的にとっても重要な神田川、仙川、玉川上水、千川上水をたどり、受講生に武蔵野市の身近な「水」を体感し、考えてもらうことを目的としました。

事務局コメント

身近な水を考えてもらうため、自分の住まいに近いコースを歩けるように班分けをしました。それぞれのコースになじみの深いサポーターに案内役をお願いしました。コース下見は丁寧にすべきですが、3コースあったので効率的な手段を考える必要がありました。まち歩き中の写真データを回収し投影する作業に手間どらないよう予行演習が必要でした。

千川上水コース、仙川コース、玉川上水・神田川コースの3つのコースに分かれてまち歩きをしました。初めに受講生には①歩く川・水路は、まちなかではどのような場所か②人々はどのように川・水路を見ているか、利用しているか③疑問に思ったところ、調べてみたいと思ったところはあるか、の3点を問いかけました。仙川コースはこの3点に加えて、仙川の将来のあるべき姿を考えながらまち歩きに臨みました。まち歩き後、ワークショップを行いました。各コースをおさらいした後、はじめの3点の問いかけを受けて感じたことを出しました。そして撮影した写真の中から、他のグループに伝えたいものを選んでもらい発表しました。



5 11月17日(土) まちを守る下水道施設 ～武蔵野市内地下施設見学ツアー

市の下水道事業の概要説明後、バスで吉祥寺東町一丁目合流改善施設の見学、吉祥寺北町雨水貯留施設周辺の見学を行い、市役所に戻りワークショップを行いました。

事務局コメント

見学場所や周辺の道路が狭く、マイクロバスで2班に分けて見学しました。前年度は2班が時間差で同じルートを見学して班が混ざってしまった反省から、この年は2つの施設を1班ずつ逆順で回ることによって混乱を避けました。

6 12月8日(土) 最終講座・修了式 「水の学校」から始める武蔵野の未来の水

この年の講座内容を写真と共に振り返りながら、グループごとにPKT(べちゃくちゃタイム)で自由に話し合い、講座の受講を通して行動や意識に変化があったことについて共有しました。その後、「水について『伝える』を企画するとしたら?」をテーマに興味の近い人とグループを作り、「やりたいこと」「なぜ」「どのように」で構成される紙芝居を作りました。講座終了後は松江市長からの修了証授与と挨拶、そして橋本名誉校長からは修了バッジの贈呈がありました。会場外の飲食店で行われた有志の交流会では、名刺交換をする姿もありました。

ねらい

各年の最終講座では、各々が受講前と比較し、気づきがどのようにあったのか知るとともに、学んだことをアウトプットするきっかけをつくることを目的としています。その後の活動につなげるためのサポーター制度を改めて紹介し、交流を促進するという役割もあります。

事務局コメント

この年の講座ではグループワークに模造紙を使わず、A3の用紙を活用しました。紙芝居は橋本名誉校長のアイデアですが、どのグループも混乱なく作成しており、グループワークのまとめと発表の手法にはさまざまな工夫ができることに気づかされました。



受講生 40名
サポーター 13名

ステップアップ講座・イベント

「もっと知りたい、深めたい」「自分の経験、知識を伝えたい」というサポーターや受講生からの声に応え、ステップアップ講座に力を入れました。サポーターが外部のシンポジウムなどで得た情報・人材を紹介してくれたり、自ら講師を務めるなど、サポーター活動の今後の可能性を感じると同時に事務局の体制、役割分担などについても検討を重ねました。



6月20日
(水)

ステップアップ講座 武蔵野台地の地下水の動きと私たちの身の回りの水循環

サポーターの内田さんが案内役となり、井の頭公園内の池と湧水の見学と、かいぼりについてお話をしました。また、八千代エンジニアリング(株)の吉田広人さんを講師に招き、武蔵野台地の地層の調査データなどを基に、地下水のお話をうかがいました。



事務局コメント

井の頭池の見学での解説はとても有意義で、雨が降っていたことも井の頭池の水について考える点でむしろ好条件でした。屋外で使用したスピーカーが途中でバッテリー切れになり、屋内で動画を流した際にスピーカーがなかった点など準備不足がありました。八千代エンジニアリング(株)の吉田さんの講演は高度な内容でしたが、パワーポイントやワークシートを使った参加型のわかりやすい説明で、参加者には好評でした。

8月6日
(月)

ステップアップ講座 健康と自然環境

水の汚染や温暖化などの自然環境が人間の健康に与える影響についてサポーターの千葉さんから科学的な視点からの講義がありました。環境の様々な指標を測定するための装置の実物を展示し、自由に見られるようにしました。



事務局コメント

春のサポーターミーティングで、武蔵野市には大人が学べる自然科学の講座が少ないのではという話題が上がり、せっかく専門的な話ができる方もサポーターにいるのだから、「水の学校」から発信しようということになりました。ゆくゆくは一般向けに行うことを視野に入れて、まずは「水の学校」受講生とサポーター向けにステップアップ講座として開催することとしました。関係部署の職員にも声をかけ、知識向上のために受講しました。

10月24日
(水)

ステップアップ講座 旧三河島污水処分場^{ポンプ}唧筒場施設見学

マイクロバスで現地に向かう道中、水に関する○×ビンゴゲームと三河島の映像資料の視聴を行いました。見学終了後、サポーターの立案で、希望者のみ現地解散し三河島周辺のまち歩きツアーをしました。



事務局コメント

2015年度の関連イベントに参加したサポーターから、「まだ見学していない人にぜひ見てもらいたい!」との声があり、ステップアップ講座として実施しました。案内役の三河島污水処分場唧筒場の職員の力添えと企画責任者のサポーターの内田さんが事前に綿密に下見や連絡調整をしたことで、スムーズな見学会でした。日本の近代化黎明期の人々の情熱が伝わる遺構を目の当たりにし、多くの参加者は感銘を受けている様子でした。ただ、見学会が全体的に駆け足の説明になってしまい、参加者からはもっとゆっくり説明を聞きたかったという声もありました。

関連イベント

- 5月19日(土) 水防訓練(市立むさしの市民公園)
- 10月14日(日) 吉祥寺東部フェスティバル(本宿小学校)
- 9月25日(火)~10月10日(水) 市役所ロビー展示
- 11月11日(日) むさしの環境フェスタ

サポーター活動

活動が4年目に入り、サポーターを中心にステップアップ講座の企画・実施を行いました。また、市が発行する「季刊むさしの」にインタビュー記事が掲載されたり、各自の所属するコミュニティで水の話をするなど活動は広がりを見せています。

湧水や水に関わるスポットをめぐる自主活動「湧遊会」の行事も継続して開催されました。

2018年度の湧遊会の活動

- 4月13日(金) 日野の湧水群散策:黒川清流公園、図書館下湧水群など
- 4月25日(土) 新宿御苑の巨樹観察と渋谷川の源流散策
- 5月21日(月) 深川散策
- 6月23日(土) 新宿区おとめ山公園の湧水散策
- 9月15日(土) 東久留米市南沢緑地周辺の湧水見学
- 12月1日(火) 飯田橋周辺、紅葉と湧水見学
- 1月26日(土) 多摩湖周辺の湧水めぐり

事務局カレンダー

4月
・パンフレット入稿
・市報入稿
・サポーターミーティング
・初回講座打ち合わせ

5月
・連続講座募集期間
・サポーターミーティング

6月
・初回講座
・第2回講座打ち合わせ
・ステップアップ講座
・第3回講座下見

7月
・第2回講座

8月
・サポーターミーティング
・ステップアップ講座

9月
・第4回講座下見
・第3回講座

10月
・第4回講座
・ステップアップ講座

11月
・第5回講座下見
・第5回講座
・第6回講座打ち合わせ

12月
・第6回講座、修了式
・サポーター登録
・水循環シンポジウムパネルセッション

1月
・かいばり報告会パネル展示

2月
・サポーターミーティング

3月
・サポーターミーティング

サポーターさんがいてこそ
その1年となりました。



第4回講座・市内まちあるき

連続講座の中では初めてサポーターがメイン講師となり、市内まち歩きを開催しました。「武蔵野台地の水のみちをたどる」と題して、3コース（神田川、仙川、玉川上水・千川上水）に分かれ、歴史・地形・水と関わるくらしや、水道施設が普及する前の上水はどのように引かれていたのかなど、サポーターから受講生へ熱い説明がありました。



内田さんに
インタビューしました



神田川・玉川上水コース

井の頭検定試験（いのけん）、玉川上水を守り育てる会など、様々な活動と水の学校の内容が重なる部分があり、「水の学校」に「楽しく、深く」関わるようになりました。いのけんや玉川上水の活動が「小さく細かい」視点だとすれば、「水の学校」は水について「大きく広い」視点で考えることができます。講座当日は台風24号の影響で井の頭公園内にたくさんの倒木があり、歩く際に危険になりそうな事態が生じてしまいました。自然の脅威への対策と、自然の保全という対立した概念をどう両立させるか、考えさせられました。科学する心と多様な意見の交換を通して「学び楽しむ」心を忘れないようにしたいです。



良島さんに
インタビューしました



仙川コース

昭和10年代頃の境地区では、玉川上水の分水路が街中を巡り、野菜や食器を洗うなど日々の生活に利用されていて、仙川も遊び場の1つでした。今回のまち歩きでは、仙川のリメイクされた場所やリメイクされていない場所、道路形態となり暗渠になってしまった箇所など様々なポイントを歩きましたが、今後また歩く際には、事前に仙川リメイクなどの資料を配布し、その目的や問題点・課題点等についてグループ内で共通認識を持ってから歩くのが効果的だと思います。今後の整備計画についても、現在のような仕切られた仙川の空間にするのか、昔のような地域と密接した憩いのある水路とするのが良いのかなど、参加者から色々な意見を聞いてみたいです。



丹羽さんに
インタビューしました



千川上水コース

玉川上水から千川上水に分岐する取水口から吉祥寺橋がある練馬区の境までを散策しました。管理状況は非常に良く歩きやすく、また用水も浅く流れも緩やかでした。沿岸も整備されて鯉がたくさんいて近づいて見られました。途中に文字庚申塔や石橋供養塔、また井口家のオオケヤキがあり、それらを遠くで見て創作園を通過し、都立武蔵野中央公園で昼食を取りながら参加者から中島飛行機の跡地の昔ばなしを色々話してもらいました。長い距離を苦情もなく完歩しましたが、もう少し、調べて役に立つことを説明したかったという心残りもあります。最近いろいろな講演会で武蔵野・上水の歴史を聞いていますが、うまくまとめられず残念でした。



「水の学校」修了生・受講生を対象に2015年度からスタートした参加型講座です。連続講座では扱いきれないテーマやレベルアップした内容について取り上げます。講師、スタッフ、参加者間の対話を重視し、みなさんと一緒に武蔵野市が取り組んでいる課題を考えたり、水循環や水環境の問題を私たちに身近なところから考えたりします。

参加者にとってはより知識を深めることができ、市にとっては水循環に関する基礎知識を得た市民の目線で見た意見を得ることができ、事業運営に新たな視点をもたらすものとなります。また、今後生まれるであろう市民活動と市が連携するうえでの信頼関係づくりにも役立ちます。

初学者向けに毎年ほぼコースが決まっている連続講座に対し、ステップアップ講座では年度ごとに柔軟にテーマを設定できるようになっています。



これまでの開催実績

- 2015年10月17日(土)
水循環・水収支
- 2015年11月28日(土)
川と上水
- 2015年12月19日(土)
下水道の施設更新・耐震化・使用料
- 2016年3月21日(火)
武蔵野市の水道～伝えたいこと、知りたいこと
- 2017年10月21日(土)
世田谷区・国分寺崖線の湧水めぐり
- 2018年6月20日(水)
武蔵野台地の地下水の動きと私たちの身の回りの水循環
- 2018年8月6日(月)
健康と自然環境
- 2018年10月24日(水)
旧三河島汚水処分場唧筒(ポンプ)場施設見学

実施方法の変遷

職員

2015年度、2016年度は武蔵野市が現在取り組んでいる水に係る施策について、担当者から直接説明を聞き、関連する現場を見た後で意見交換し、武蔵野の水と生活・まちの関係、そしてこれからの在り方を共に考える講座となっていました。

外部講師招聘、サポーター

2017年度、2018年度はサポーターがこれまでの経験や知識から他のサポーターや受講生向けに専門的な話をしたり、外部講師を招聘して学びを深めたりする講座となりました。

事務局コメント

2016年度から、サポーター企画の1回完結型講座が実施されるようになりました。このうち内容によって、より専門的なものはステップアップ講座として水の学校で一通りの水循環を学んだ受講生やサポーターを対象とし、より入門的なものは一般向けのオープン講座として広く参加者を募集しています。サポーターの中では市と連携しない自主企画でも各々で学びを深める活動がありますが、市と連携するからこそできる講座もあります。また、一般向け講座を始める前の足掛かりとして、顔のわかる受講生やサポーター向け講座は取り組みやすくなっています。

つなぐこと、続けること～「水の学校」の立ち上げから5カ年を経て

NPO法人雨水市民の会 笹川みちる

「水の学校」のはじまり

2013年の夏、当時武蔵野市環境部下水道課におられた平塚香さんからお電話をいただき、初めて武蔵野市役所を訪ねました。当時私は、東京都墨田区に拠点をおくNPO法人雨水市民の会のメンバーとして、墨田区が設置する「すみだ環境ふれあい館」で、雨水活用をはじめとした区の環境施策の展示紹介や親子向けの参加型環境啓発プログラムの企画運営などに携わっていました。それらの活動を知った平塚さんが「武蔵野市で水に関する新しい市民向けプログラムを考えているのでヒアリングをしたい」と連絡をくださったのです。

「下水道課が主管の事業だが、水や水循環そのものに興味を持ってもらい、その面白さやそこから広がる歴史、地形、まちづくりへの学びを共有したい。その結果として、下水道の仕組みや市の事業への理解を深めてもらいたい」という平塚さんの意図には大いに共感するものがありました。生活と水の接点は非常に多様で、上水道・下水道などのインフラを含めた都市の水循環の話や、固定的な施設がなくてもまちなかで水を感じ、学べることが多くあるといったアイデアで盛り上がったのを覚えています。

2014年度から「水の学校」の企画運営を受託し、立ち上げからの2年間、平塚さんとは「水の学校」のことはもちろん、水に関する周辺の話も含めて本当にたくさんお話しし、そのことが講座の幅の広さや運営の柔軟性にも反映されたと感じています。

継続のためのビジョン

2014年度の初め、事業の骨格を固めて、告知、募集、講座開始へと走り始めようというところで、まず驚いたのが、2014年度から5カ年のビジョンを提示されたことです。もちろん武蔵野市も予算編成や業務委託契約は年度ごとに行われますので、想定通りに進められるとは限らないのが大前提です。それでも、段階を経て職員が講座運営のノウハウを身につけ、受講した市民が運営に加わり…という計画を初めにうかがったことで、我々に期待されている役割を理解し、下水道課のみなさんとより近い視点で、パートナーとして事業を担っていくのだという意識が高まりました。

事業が人事異動で打ち切りになったり、当初と趣旨が変わってしまうという事例を聞くことがありますが、担当者が交代することを想定して内外でビジョンを共有し、人のネットワークを作るという事例はなかなか耳にすることがありません。十分に全うできたかはわかりませんが、我々のようなNPOが、市民と行政との橋渡し役として加わることも「水の学校」のスピリットを含めた継続性を担保するひとつの方策だったのではないかと思います。

また、事業開始2年目という早い段階で「循環のみち下水道賞(国土交通大臣賞)」という対外的評価をいただいたことも「水の学校」を大いに後押ししました。これにより、市の内部からの注目も高まり、他分野の市民向け講座においても「水の学校」の企画運営方式が参考にされていると聞いています。このような組織内の風通しのよさも新しい試みを育む土壌となっているのではないのでしょうか。

市民の力

行政と我々NPOに加え、「水の学校」の欠かせない一角を成すのが参加する市民のみなさんです。私自身、連続講座の1期、2期は、ほぼ毎回皆さんの前に立って講座運営を担い、その熱心な勉強ぶりにパワーをもらうと同時に、運営の不備を指摘されたり、ねらいを鋭く問い正されたり、緊張の連続でした。お互い初めてのことで、試行錯誤も多かったのですが、真剣に向き合い時間を共にしたせいか、その後も「水の学校サポーター」として力を貸してくださっている方が大勢います。

「最初は、『毎回仕切ってくるあの生意気な女はだれなんだ?』って思ってたんだよ」「(サポーターとして来てみて)昨年度より進歩が感じられますね」と遠慮のないことを言いつつも(笑)、頻繁にミーティングや講座運営のサポートに出てきたり、有志の水めぐりを企画して声をかけてくださるみなさんが、「水の学校」の何よりの財産だと感じています。3期以降は市職員のみなさんが受講生との直接のやり取りの中でよい関係を築いてくださっていると思います。

「「水の学校」がきっかけで東京の名湧水57選をめぐり始めて、人生変わっちゃったよ」なんて最高に嬉しい言葉です。人によって強弱はあれども、受講生に、水との接し方が少し変わるような機会を提供できていれば、知識を家族や友人に伝えたり、将来にわたって水に関わる施策に関心を持ち続ける心強い存在が増えていくことでしょう。

6年目、そしてその先へ

改めて「水の学校」の5カ年を振り返ると、5期の連続講座で161名の修了生を送り出し、そのうちの76名がサポーターとなりました。20名以上の市の職員が水を切り口に市民の前で話をしたり、直接意見を聞く機会を持ちました。名誉校長を引き受けていただいた水ジャーナリストの橋本淳司さんをはじめ、講師、見学先などの方々には、解説やアドバイスをいただくと同時に、武蔵野市特有の水環境やその課題、市民の意識について知っていただく機会になったのではないかと思います。そして私自身も、雨水活用に関する普及啓発というところから踏み出し、広く水循環をどう伝えるか、また国や自治体の施策と水循環がどのように関係していて、市民はそこにどんなアクションができるのかという視点を持つようになりました。

初めにうかがった「水の学校」の5年後の姿を思い起こすと、まだ道半ばの部分もありますが、たくさんの芽を感じることができます。まずは少し形を変えて、6年目へと「水の学校」が続いていきます。より裾野を広げること、かつ市民の自主活動の度合いを高めることが変化のポイントです。我々雨水市民の会も、下水道課のみなさんと連携してまた新たな役割を探りながら、水を考え、楽しむ仲間の一人としてこれからも「水の学校」の発展に関わっていければと思っています。

おわりに

2014年度に開始した「水の学校」事業は5年が経過し、水循環を中心とした水環境への市民の理解・関心が深まり、組織的ではありませんが自発的な研究活動や、市民から市民への口コミの広がりが始まっています。これからは市民の水循環・水環境への関心をさらに深め、研究を奨励し、さらに地域全体へ水循環の推進・水環境保全活動を広げることが望まれます。

目的を振りかえる

「水の学校」を下水道課が開校する目的として「2014年度に下水道使用料の見直しを行うことに合わせ、下水道施設の重要性や更新等に莫大な費用がかかることについて、市民に理解していただく場をつくる」ということがありました。現代社会の水の循環の中で、人が手にして離れた水を、再生し自然の生態系の中に戻していくのに、どれだけの手間と費用がかけられているかを知っていただきたかったからです。水循環全体を学ぶ中で、当市を含めた下水道事業について一定の理解をいただいたと感じています。しかし、奥が深い下水道事業にもう少し興味を持っていただくため、下水道に特化した講座を多く開けなかったことが反省点です。環境課題として水循環・水環境の保全という面では多くの方に興味を持っていただいていると思いますので、その点では次のステップに繋げていけると感じています。

講座構成について

連続講座で水循環全体を学んでもらい、それに付随してステップアップ講座、オープン講座がありました。座学だけではなく、五感でも感じてもらうことにより、一層理解が深まるようになる構成としていました。すべての講座でワークショップを行うことにより、一方通行ではなく、自ら考え、参加者同士の意見を交換し、発表することにより、気付きがあり、学びが深まっていったと考えています。運営する側としても「水の学校」を通して講座を組み立て運営するノウハウを一定程度修得できました。

受講生について

受講生について、年齢・職業・経験など多種多様な方々が集まり、とても積極的に学んでいただき意見交換していただいたことはよい点でした。しかし、受講生の興味も人それぞれで、市が伝えたいものと全てが一致するわけではありません。今後は、市が伝えたいものはしっかり伝え、受講生が学びたいものは、学び続けられるように少し後押しするといった、互いに信頼関係を築きながら講座を組み立てていくことが必要と考えます。また、低年齢時から下水道の役割や水循環・水環境への関心を深めることは重要であり、

低年齢対象の講座も必要と考えます。そのため、子ども向けの出前講座を行っていくこともこれからのポイントになると考えます。

水の学校サポーターの活動について

水の学校の修了生は、水の学校サポーターとなり市と連携しながら、自主的な活動をしている方々がいる一方で、サポーター登録を行ってなくても地域で活動している方々が一定数います。サポーターは組織団体ではなく、専門知識を持った個人が連絡を取り合いながら活動しており、他の環境団体にかけもちで所属している方もいます。当初、市民団体が誕生して活動していくことを目的としていましたが、組織団体の誕生にはまだ到達していません。しかし、様々な形で水に関する関心、意識をもった方々が市内で啓発活動を行っていることで、効果はあったと考えます。

今後について

「水の学校」事業において、水循環・水環境について参加者が自ら考え、理解していただくことができたことは大きな成果でした。多くの修了生が、その後も活動が続けるサポーターとして登録されていることが、ひとつの結果の表れであると感じています。

また、外部からの評価として、2015年度に国土交通大臣賞「循環のみち下水道賞」を受賞しました。下水道はアンダーグラウンドにあり、日頃目につかない存在であります。生活に欠かせない存在です。そこに「水の学校」が環境啓発としてスポットをあてたことが、「下水道の役割、重要性、魅力、可能性などに気づき、共感し、行動してもらうための効果的な広報活動や環境教育の取り組み」として評価され、受賞につながったものと考えています。

この事業の目指すところは、サポーターが「水の学校」の経験を生かし、自ら水循環、水環境、更に武蔵野市の下水道事業の重要性を学び、より多くの市民に理解を深めてもらうために伝え、行動することにあります。そのため、今後もサポーターミーティングを継続し、自発的な学びや行動を継続できる仕組みを確立できればと考えています。

ところで、水環境の問題は他の環境問題と密接な関係があります。環境課題を全体的に解決するためには、多様な環境啓発が連携し、知識や人材の交流を深めることが重要です。2020年11月クリーンセンター内に環境啓発施設エコプラザ(仮称)が開設されることで、水の学校サポーターの活動の場も広がるものと考えています。

以上のことから、今後この5年間の成果をさらにステップアップし、水の循環を切り口に広く市民に武蔵野市の下水道事業について理解していただくことで、下水道の目的である生活環境の改善や公衆衛生の向上、河川等の公共用水域の水質保全や浸水被害の防除のために必要な、市民一人ひとりの適正な排水や雨水の貯留浸透などの行動が広がることを追及していきます。

報告書の発行にあたって

『「水の学校」5年間のあゆみ』の発行にあたり、当事業にご協力いただいた様々な方々へ心から感謝申し上げます。「水の学校」の事業は、あらかじめ5ヶ年の事業として予算計上されていた計画ですが、5年目を迎え、市内外での評価をいただき、事業立ち上げの経緯や運営方法などについて問い合わせを受けることもありました。「水の学校」に携わった職員の間では、一生懸命事業を進めてきた成果・振り返りとして、「報告書を作成したい」という気持ちが湧き、限られた時間の中、構成等を考え議論し、打合せを重ねて今回のような形になりました。この報告書を参考に、また新たな環境啓発活動を市民と共に作り上げる際の材料となれば幸いと存じます。これからも市民のみなさんと連携し、くらしの中の身近な水循環、下水道の役割や、水循環・水環境の課題について、楽しみながら考えを深め、行動していきたいと思います。

水の学校の発行物

「水の学校」では、受講生の声や講座を通して得られた知識、疑問などをもとに「水の学校」の活動をより広く伝える発行物を制作してきました。武蔵野市下水道課ホームページから、それぞれPDF版をダウンロードいただけます。

http://www.city.musashino.lg.jp/kurashi_guide/sumai_doro_suido/gesuido/1005732.html



武蔵野市に
くる水・ゆく水
A4版冊子



武蔵野市
水のほそみち紀行
A2版まちあるきガイドマップ



Oh!水
むさしのの水のものがたり
A3版パンフレット



水の学校 5年間のあゆみ

～武蔵野市水環境講座報告書～

発行年月 2019(平成31)年3月

発行 武蔵野市環境部下水道課

編集協力 NPO法人雨水市民の会

デザイン snug.

